

合田大介の『紅毛醫術聞書』の解題と翻刻

板野 俊文

香川大学

はじめに

本稿では、江戸中期の讃岐の医家であった合田大介の著した『紅毛醫術聞書』¹⁾について述べる。

本論に入る前に、合田大介の略歴について解説する。これは、大介の長男である合田時蔵の表した『蘭齋先生行状』²⁾による。長兄である合田強(通称 求吾)は、蘭学を紹介した人物として、知られている³⁻⁵⁾。しかし、大介に関してはほとんど知られていない。かろうじて、富士川游先生の論文の『温恭合田求吾先生』³⁾文末に求吾の弟として、名前のみが登場する⁶⁾。

大介は元文三年(1738)に讃岐の国和田浜に生まれた。諱を久敬、又は善與、号は蘭齋、通称を大介という。合田傳右衛門の三男で、長兄は合田強。次男の字八郎は14才で夭折し⁷⁾、そのため強とは15歳の年齢差がある。兄の勧めで宝暦五年18歳の時、長崎に行き、阿蘭陀大通詞である耕牛吉雄永章⁸⁾(1724~1800)と、その弟の蘆風吉雄永純⁹⁾(享保十年(1725)~安永六年(1777))紅毛外科を二年間学び、讃岐に戻った。しかし、兄は「学未だ成らざる」としてさらに数度長崎遊学をさせた。大介は名声を馳せるようになった宝暦十一年24歳で帰郷、すぐに京にむかい松原敬輔(二代目一閑齋)¹⁰⁾の許で二年間学んだ後、分家開業(増屋合田家)したという。大介は若くして外国語を学んだ事から、オランダ語の読み書きが堪能で、蘆風の死ぬ前の遺言で遣り残した外科本の翻訳を大介に依頼したという逸話がある²⁾。寛政七年(1795)三月 死亡 58才。

合田大介の業績の記述は長与健夫の論文が嚆矢で、『紅毛醫術聞書』の一部を翻刻し、合田大介の「カンケル論」として述べられている¹¹⁾。また、

この仕事は、その後に永富独嘯庵を通じて、華岡青洲の外科手術に影響を与えたとされる。長与の論文の他には、胡光の論文¹²⁾がある。

問題は、吉雄耕牛や蘆風は生前その業績をほとんど出版しなかったことである。現在、吉雄流の水薬、油薬、膏薬の処方是全国各地に写本として残っているが、これらからは吉雄流外科の全体像をつかむ事は困難である。当時の吉雄家の和蘭流外科が、どのようなものであるかを知る事は重要であると考えた。そこで全文の翻刻を行ったので報告する。

凡 例

- 一 この書は吉雄蘆風の講義を合田大介が書き写した講義録の『紅毛醫術聞書』である。
- 一 今回、翻刻したのは香川県立ミュージアムに所蔵されている原本である。
- 一 本文は漢字とカタカナで書かれているのでそのままの形で翻刻した。
- 一 翻刻中で、筆者の注は()を用いて書いている。
- 一 虫食いの部分は■を用いて示した。これは最初の部分に多い。判読不能な文字は□を用いた。
- 一 講義録である事より、重複などがあるが、合田大介の意思を尊重し、あえて全文を翻刻した事を付記する。
- 一 原文は縦書きである。

翻刻

(表紙)

紅毛醫術聞書

(本文)

紅毛醫術聞書辨 **合田** (角朱印)
双松亭 (合田大介の屋号)

ヒボウネス エン ハロテエテス

○此腫物大人小兒トモニ有 出処兩腋下兩内股又ハ耳後ナトニモ発ス 寒熱甚者也 内薬喪発可也 其内毒氣甚シク見エハ下剂輕粉加テ可用 外治ハ痛ヲ和ケ散如クシカクベシ 散膏薬方

テヤキロンコム一シイ テヤキロンシンフレイキス

テラアネスコムメリ クウリヨム

右類見合■大テイ此ルイニテ散者也 是膏ニテモ不散時ハ痛テ■散ス 蒸薬用 蒸薬方 饅頭 内皮 サフラン

右乳汁ニテ煉リ温テ蒸也

又方 大麦粉 蜜 ホウトル 無塩物

右煉合温テ蒸ス也 テリア、カ少シ加ル方モ有 是ニテ堅リ解膿モチ見ユレハランセツタニテ傷■也 尤耳後■大筋アル所ナレハ慎テ針サス也 大筋ニ針アタレハ血多出止リカタキモノ也 口明テノ治タイテ諸腫口明シニ相ニタリ フチコハリアラハシンフレイキスノ類ヲ塗ル也

カルホンキリイ

○此腫物前之ヒボウネスニ相似リ 出所キワマラストイヘドモ多首胸腕脚ナドニ多発ス 年ニヨリテ世上一躰ニ流行スル物也 甚毒強朝ニ発テ暮ニ死スル人促是レアリ 此腫物ハ散ス事ヲ畏ル 強テ散シ薬ヲ用ユレハ死ニ至ル事急ナリ 又ハ去血法又ハ下剂ヲ用ユル事ヲ忌 内外共ニ氣ヲ可付事也

外科早ク膿ス治ヨシ 外科仕懸

和ラカ成毛綿ヲ持腫上ヲソロ一トモミ和ル也 其跡仕懸 膿セノ方

醴一味 インクエントムノ如ク煉ツメ温ヲ貼ス

又方 塩少シ コガラシ見合

右煉ツメシ醴ノ内へ入鍊合貼ス 是仕カケニテモ堅トケ散ラサル時ハ薬ニ見エシ大麦粉入シ蒸薬モ用 蒸薬方 ヒトモジ白根蒸灰ニテユルヘ

ホウトル 塩少シ交テ

右二味テ蒸也

又方 テヤロンコム一シイ ムシラキニフス 各四十八銭

■ゴガラシ廿四銭 インクエントムハジリコム 四銭

■右交合微火ニテ煉リ前ニ見エシ通腫上ヲ毛メンニテソロ一モミ和ケ其跡エ貼ス 毎度付変ル事ヨシ

又方 コシイコロセユム 二十四銭 チャン 二十四銭 ヲ、リヨムカモメリ 見合 右煉合貼ス

又蜜膏モ用 蜜膏方

大麦粉 蜜 鶏卵黄身 右煉合貼ス

又熱灰ヲ毛綿ニ包ミ腫上ヲナツレハ散事モ有 内薬輕キ表発ノ剂ヲ用 微汗ヲ取事ヨシ

應薬方 焰硝 毛貝 ヲクリカンキリ 此類用

右腫物自ラ口敗ル、ヲマツ 口明テハ

ハルサム類 テレヒンテイナ 此腫膿ヲ強クヲシ出ス事ヲイム サイメイチヤ サクリヲ入ル事ヲ忌ム 蓋膏薬ハ

テヤキロン 蜜膏ナト用

是腫物少ニ膿有ト見ルトモ針ヲ用ル事ナカレ 針早キ時ハ筋引ツリテ不治也 自ラ傷ル、マテ待テヨシ 紅毛ニテ古ヨリ針ヲサシ毒氣ヲヌク事ヲ好メドモ腫物ニヨル 此腫物ナトニ針早キ時ハ痛出ル故初心ノ内ハ針ハ慎ミ可用

吐方下法去血方蒸物ヲ忌

右之腫物ハ時疫ナトノ類ニテ年ニヨリ世上ニ流行スルモノ故■ウツルモノ也 スイブン胃中スカザルヤウニスル事第一也

胃中空クナレハウツルモノ也 夫故此症行ハル、時ハ酒食ヲ専ラ用イ空腹ナラザル如クスル也 右テイノ病ニノソム時ハツバキノミコム事ヲキロウ也 ツバヲ吞込ハ夫ヨリ毒氣入者也 其時コトニツハキ出ス事ヨシ

去邪法

右 燒門ノシキイノ上ニ置酢ヲフリカクル也 紅毛ニテ時疫行ハル、時此方ヲ家ゴトニ用ユト本書ニ審也

同病 難症

○此腫物前症似タリトイヘドモ多水フクレスル有 又ハ赤色ニシテ堅コハリ強熱甚シキモノ有 後ニハ

ヒユルト云腫物ニ成モノ也 日毎ニ腐入り墨ノ如ク黒ク成急ニ骨ニ腐入モ有テ時ニ強腫レ火ニテ焼如ク痛甚シキモ有 又自フクレ長引自ラ傷レ青黄汁出モ有 其跡蟻ヲ焼タル如キ色モ有 色ニノ変スルモノ也 出處首面猶更難治内外治トモ氣ヲ付ベシ 内藥発表ノ劑可也 去血ヲ忌 外科 水フクレヲ敗リ毒氣ヲヌク事第一也 水フクレヲ其仮療治スル事モ有 主治方

カンフルフラントウエン テリア、カ少シ
右交合引也

蒸薬方 蜜サジニテ四スライ 醴同三スライ 鶏卵黄身ニツ
砂盆 四錢 右煉合温テ用
又方 小麦粉 十六錢 酢 四錢 右水ニテ煮煉合テ
サフラン 蜜 八錢

右何レモ交合温テ用ユ
如右ストモヲツルモノ也 切取事ヲ忌 灸アトノ如ク成モ有 腐肉見エハ肉切膏
エケビシヤコム

又方 蜜ヒニツ 鶏卵 黄ニツ 枯礬 一錢
右交合貼ス エケビシヤコム少シ加ル方モ有
又ヒユルニ成痛出レハ

サンブウシイ カモメイリ 各一握半 ワア
トルニ百四十錢

右交合微火ニテ半分煮其上ニ
スヒルテスヒイニイ 四十八錢 テリア、カ
十六錢

右何モ交合温メ毛綿ニ浸シ貼ス 此跡引上ル
治可也

エケヒシヤコム ラキステイヒユム
交合貼ス

此腫物口早く治スル事ヲ忌 強テ治スレハ毒氣残
リホトナク又発ス 毒尽テ見ユレハ肉上用方

テンキテユルメラ アロエス 蓋テヤハ
ルマ

又エスカルモ用 灸 焼金 見合
註云 腐強臭氣有ハ カンフルフラントウ
エン 四十八錢

サルアルモニヤカ 生石灰 各四錢
テリア、カ 八錢

右交合毛綿ニ浸シ腫上ニ貼ス

又方 カンフラト ソツヒルマアト

右交合腫頭ヲアケ腫ノ回ニ貼ス 一時ヨ
リ二時ホト間貼ス

ヒユホウネス ヘエネスホイレン

○此腫物両内股両腋下ニ有 婦人帯下ノ後此腫ヲ
多発ス 時トシテ移ルモノ也 又痲症下疳之後
此腫ヲ成ス 何レニテモ初発癢強腫痛甚モ有
又身色ニシテ腫レ痛マサルモ有 多ハ内股トイ
ヘドモ時トシテ脇下ニモ発ス 當時ノ妓ナトニ
名ハ是■■テウツルモノナリ 此腫ハ散ス事ヲ
畏ル 強テ散ス時ニハ其毒汐ノ満ル如ク一身へ
早ク入モノ也 尺沢ヨリ血ヲ取ル事ヲ忌ム

○前ハ右之如ク引上ウマス事ヲ専ラ用シカドモ當
時ハキロウ也 今ノ紅毛ノ治ハ下劑ニ輕粉加土
茯苓劑専用瘀血ヲサリ生血ヲ求ル治ヲ可ナリト
ス 前之如ク引上膿ス時ハ殊外ヒマドル故下毒
ヲ專一用 今之紅毛ノ如ク治スレハ重テ発スル
事ナシト云

當時内科モシ便毒痲症ソヒラル時ニテモソイヲ
ラサル時ニテモ散ス時ニハ輕粉劑ニテ毎々解毒
スル也 此仕カケニテモ不治痛甚時ハ見合壯年
強人ハ筋ヨリ血ヲ取 下劑粉ヲ用ユ 外療腫ノ
上ニテラアネスコムメリクウリヨム貼ス テヤ
キロンモ用 禁食ヲ専ラ用 平生食シテヨキモ
ノ

ゲルストワアトル
大麦水粥 随分和ニ煮テ食
甘艸 イノント種

右大麦汁ニテ用ユレハ下利スル也 是類ニ
テ多散モノ也

右之仕懸ニテモ不散時ハ早く引上膿ス治ヨ
シ 引上膿ス治

毛綿キレニカモメイリノ油類ヲツケテ上ヲ
ヨク〜スリコナス也 毎々モミ和ラクレ
ハ赤ク色トリ腫痛スル也 其跡膏藥又ハ蒸
薬ナドヲ用 膏藥ハ テヤキロン一日三四
度ホト膏ヲトリ其跡へ布ニ油ヲ付右之如ク
ヨク〜モミヤワラク也 何レノ道ニテモ
早く膿ス事專一也 病人痛甚強キモノ也
病人動事歩行ナトヨシ 動事不成時ハ蒸薬
ヲ用

蒸葉方

一ト文字 白根熱灰ニテ蒸焼ニシテ 麦粉 蜜

右交合温テ用 醴ヲ加ル法モ有

又方 饅頭 内皮外皮ヲ去乾テ サフラン少シ

右交合乳汁ニテ煉温テ日ニ幾度モ用ユ

右之如キニ内薬何ヲ用ユルト云時引上ル内薬瘀血ヲ去リ生血ヲ求ル薬可ナリ

輕粉ケレイソウツ

右何レノ下劑ニテモ粉ヲ加テ用ユ

是之仕懸ニテ上リ膿ニ成タル時針ヲサス 其内早ク事ヲ忌ム 殊ニ腋下ニハ大筋有故是ニ針當レハ血殊之外餘計出テ止リ難キモノナレハ慎テ針ヲ用ユヘシ 若病人針ヲ畏ル、時ハ口切ヲ用テ口明レ也 口切ハ前ニ見エシカウステエーコスヲ用 口切レ膿出ルノ後ハ吸膏

ハシリコム テケステイヒコム

是類ヲ撰ヒ用ユ テリア、カ ヘレシヒタアト

是類ヲ撰ヒ加フ 蓋膏 テヤキロン

肉上膏 ハルサム カラメイチャ 撰テ貼ス

右之通色々治ヲ加レドモ彌毒強口不治二年三年不治時ハエスカルヲ用ユ

エスカルノ方 枯礬 ヘレシヒタアト 撰用此仕掛ニテモ口不愈時ハ燒金ニテヤキアトヘカラメイチャヲ付其上ヲ卷毛細毎度取カユル也

ヘルニヨウネス

○此腫物初寒氣ニヲカサレシヨリ発 手足亦腫ニシテ痛又ハカユミモ有モノ也 一躰コハリ強ク腫レ時トシテ自敗ル、事モ有 日ヲ経テ傷レ深ク廣リ膿汁ヲ出シ臭氣甚シキモノ也 是ヨリシテコウトヒユルト云腫物ニ成 多膿又ハ散事モ有リ 又ハヘエテヒユルト腫物ニモ成ナリ 寒中旅行シタル人 寒中軍ニムカイテ雜兵トモ野ニ伏 山ニ伏ナトシテ此腫ヲナス 痛甚シク劍ニテツク如ク痛者也 此腫赤腫熱痛シテ自由ナルハ可治 若青黒色ニ而痛甚シクツリナトスルハ難治也 是乃ヒユル也 此症ニ水フレナトサカル事有 是ヲヘエテヒユルト云 右之如クニテ黒ク腐レミエ骨マテ腐レ入ハ是コウトヒユル也 甚難証也 是類ハ寒氣ニトチラレタル故氣血共凝滯シテ此腫ヲ成ス 手足指ナレハ可治 腕脚ハ難治ナリ 寒氣ニトヂラ

レタルモノ火ニテ温メ湯ニテアタ、メナトシテ此腫ヲ成ス 是ハ六ヶ敷ナリ コリカタマリタル血ヲ其俣トキメクラス仕掛ヨシ 餘之腫物ナラハ温メ蒸シナトスルケレドモ此腫ハ蒸葉ヲ用ユレハヒユルニ成故キロウナリ 寒氣ニトチラレタル者ハ火ナク自然ニ温ナル室ニ入ソロヘトナテサスリ動カシナトシテ自ラメクリ温ル如シテヨシ 又雪ヲ手ニ持テソレヲソロヘスリコミテ次第ニ温ル事ヨシ 右之如クスレハメクリキテ自ラ温ル者也 夫ヨリ冷燒酒引少シ火之有温ナル所入ツレユキ夜着ヤウノ物ヲ着汗サスシヤウ可也 内薬発汗劑桂枝酒ヲ温メ用 強クトチラレタルニハ右之如クスレハメクリキテ汗スルモノ也 一通リノ寒ヘハ雪スリ水スリニテ見事治スル也

雪燒霜燒應用方

ハシリコム テケステイヒコム 右ニエケヒシヤコム加フ

ハルサムヘネラアルム ハルサムヘルヒヤアノム

テンキテユルアロエス テンキテユルメラ

右撰可貼

又方 子鼠 霜 ア、クワカルシス カンフルフ ラントウエン

右交合毛綿ニ浸シ貼ス

コウトヒユル カンカラアア ヘエテヒユル カンカレイナ

是変証ニ右之治可也

年毎ニ雪燒霜燒スル者治

ヲ、リヨム

テレメンテイナ

右一味常々ニ引也 是モ引ヤウ悪クレハ痛出ルモノ也

ヘエテヒユル コウトヒユル

○此腫物初発如何ト云 或散又不散腫物ニ成モノ也 腫ニナリテ急ニ腐有 緩ニ腐有急成者ハ色紫黒ニシテ敗レ廣カラズ骨マテ腐入モノ也 是ヲヒユルノ発リト云 又水フクレシテ痛如燒 腫ハ和カニシテ色々ノ変色ヲアラワス 是ヲヘエテヒユルニ成タリト云

○色黒クシテ臭氣甚者ヲコウトヒユルト云

- 初痛甚シクシテ堅ク後和ニシテ指ニテヲセハ指形ノ付テ痛ハソロヘサリ又赤痛色モ時々変色ヲナス 水フクレ又火焼ノ如クシテ赤黄色ノ膿汁ヲ流ス者ヲヘエテヒユルト云
- 右之モヤウニテ毒氣強腫物ニサワリテモ少モ覺ヘサルモノアリ 是毒氣深ク内ヘ入タル故覺サル也 是腫ノ色灰色又ハ紫黒色ニシテ腫頭ニモ無熱 和カニシテ後ニハ少シコハル事モ有 腫乾事モアリ フラヘシテ臭氣事ノ外ツヨクシテ次第シタイニ腐入モノ也 是ヲコウトヒユルト云
- 右ヒユルノ癩リハ口ヲスナトヨリモ是腫物ニ成者也 大テイ諸腫変症シテ是腫ヲ為ト云 生付熱強又ハ母ノ胎毒ヲウケテ此腫ヲ成モ有 又極老ノ人血メクラスシテ此腫ヲ成トモ云 是ナド之人十人ニ一二人ハ必有モノ也 或外科ノ治アヤマリヨリシテ此腫ヲ為アリ 医タルモノヨクヘ考テ治ヲナスヘシ 等閑ニ藥ヲ施スヘカラス 治アヤマルワ藥種ニハアヤマリナク医タルモノ、トガナリ 藥ハ医者ノ家来ナレハヨク撰テ用ユヘシ 使ヤウアシケレハ色々悪症ヲナス 是医ノアヤマリ也
- ヘエテヒユルハ甚大事ナルモノ也 へエテヒユルノ内ニ早く治ヲ施スヘシ コウトヒユルニ成リテハ難治也 へエテヒユルハ大ジナレドモ此内ハマダ治術有也 コウトヒユルニ成リテハ切テステサレハ治ハナキモノナリ 切ル事モ生肉キワマテ切舎ル也 少ニテモ腐残レハ又夫ヨリ腐入故也 此腫老人小兒ナトハ治ハ施シカタシ 切ステナトシテ治強故ナリ 又腫氣^勞テエリンキ^{肺病} ロンゴシユクト シキウルホイコ此ナドノ病中ニヒユルヲ病ハ難治也 強人無病ナル人ハ多治スヘシ 其上ヒユル輕症ハ猶サラ治シヤスシ 紅毛ニテハ毎々治セシト云 又中年人腫物ハ大ナリトイヘドモ無熱殊ニ手足ニ出来タルハ輕シ 手足ハ切舎ラル、故ナリ 一身ハ重シ 切ステル事ナラヌ故ナリ 又老人脚腕ナトニ腫物シテ久シク不治後灰色ニナリ是ヨリコウトヒユルニナレハ必死也 ヒユルニ乾ヲ云トヘエ或大汗或嘔或不寐此症ヲアラワセハ死ニ近シ へエテヒユルノ内ニ早く治ヲナスヘシ

コウトヒウルハ難治也 手足ハ早く切スツヘシ
○金瘡卷毛綿強クシマリテ後ヒユルニ成事有 又腕脚打ヲリテヒユルニ成有 或釘針立タルヲ不拔シテ上ヨリ油膏藥ノルイ付レハ必ヒユルニ成也 老人虚弱人ハ鶏水煮鶏卵ナトヲ食シテヨシ

○ 饅頭^{内皮} 丁子

右二品ツキアワセ布ニ包ミ酢ヲ付テ鼻中ニ入カ、スル事ヨシ 老人又虚弱ノ人ハ氣ヲ引立テヨシ

○ヒユル久シク成タルニハランセツタニテヤフリ見ル也 血之餘計出ルヲヨシトス

蒸藥方

ルウタ 生二握 カモメイリ 一握
胡麻仁 八錢 水 三百九十六錢

右鍋之内ヘ入微火ニテ煮減半

砂盆 二錢

右何モ交合蒸也 蒸ヤウ見前ヲシモメン卷モメンアツクスル也

又方 馬糞

右酢ニテネリ温テ蒸也

註云

手足骨ツカイヨリ腐ハ治シカタシ 早く切舎テヨシ ランセツタニテカキ敗リ見ニ血出ヌハ難治也 血出ルハ治スヘシ 餘計血出ヲヨシトスル也 又腫上リ早く敗テ汁ヲ出ス也 内ヘ汁コモリテハ腐早キ故畏ル、也 浅深ヲ察テ針サス也 是ニハカンカレイナヲ切テ腐ヲ止ルラフメントウヲ用方
カンフルフラトウエン 六十四錢 スヒルテスマテリカアリス 十六錢 スヒルテスサルアルモノニヤカア 八錢 テリア、カ 四錢

右交煉合セ洗フ也 此跡ヘハメイチャニ是藥ヲ浸シ貼ス 又ハテキスヒイヒモ貼ス方

コムテレメンテイナ 三十二錢 スヒルテスマテリカアリス 八錢 ヲ、リヨムエネエフルメラ 各四錢 鶏卵 黄味ニツ

右交合貼ス 是ニテ膿ニ成タル時

又方 インクエントムハシリコム 八錢 テンキテユルメラ 四錢

サハウネス 八錢 右煉合貼ス

又 サルアルモノニヤカア ア、クハカルシス

右撰テ可貼 或説蒸ニハヲヨハスト也
 ○ヘエテヒユル治間違ハコウトヒユルニウツルモノナレハ早く氣ヲツケテ治ヲ為ヘシ 腐レ強キ時ハ薬性強者ヲエランテ用ユ 又ハ香之高薬ヲ撰テ可用 ハルサムルイ疵ヲ治ス薬可也 蒸薬合薬モ前ヘエテヒユルニ用テ有 見合テ用ユヘシ コウトヒユルニナラサル内治ヲ急クベシ
 應用方

サルアルモニヤアカ 四銭 胡麻仁粉 二銭
 ヲ、リヨムカモメイリ 十二銭 右煉合貼ス
 スヒルテスヒイニイ テリア、カ 此二味加ル法モ有

又方 カンフルフラントウエン テリア、カ少シ
 右交合貼ス

又方 スヒルテスマテリカアリス エレキシルフロフリタアテス
 丁子油 少シ 右交合貼ス

又方 ア、クワカルシス カンフルフラントウエン 少シ
 サルアルモニヤシイ 少シ 右交合貼ス
 軽粉加ル方モ有

又方 スヒルテスヒイニイ アロエス メラ
 サフラン

右四味攪煮蒸コトク貼ス

○内薬 心氣ヲスコヤカニシテ強シテ瘀血ヲ生血ニスル治可也 平生茶ヲ多飲シテヨシ

○外治前ニ見エシ蒸薬合薬ヲ撰テ可用

又方 テンキテエルテリア、カ

又方 カンフルフラントウエン エケヒシヤコム 少シ

右交合温ナルヲ毛綿ニ浸シ貼ス

○病人血多シテ色合ヨク熱性ト見エ脉状タシカナレハ筋ヨリ血ヲ取 内外氣ヲ付テ療スレハタトコウトヒユルニテモ此証ノ病人ハ多治スベシ

○皮ニ一腫発シアツカヘドモ不覺和カニシテ腐レ深キモノハ多クハ難治也 是ノ内ニ瘀血アリ此ヲ早く去ラス時ニハ腐レ骨マテ入モノ也 腕脚ナトナラハ腐リ入ラサル無事ナ所ノツカイヨリ早く切テスツル也 一身ハ切りスツル事ナラス故腐レヲ喰抜散薬膏薬ヲツケテ毒氣ヲ取ナリ又コウトヒユル腫上リヲル時は早クランセツ

タニテ敗ルヘシ 小児女子ナトニテ針ヲ畏レハ口切ヲ用テ悪汁ヲイタスシカケヨシ 蒸薬モ用ユ 前ミヘシ スヒルテスマテリカアリスヲ用テヨシ

蒸薬 大麦煮汁 九十六銭 ルウタ酢 四十八銭
 テンキテユルテリアカ 三十二銭 サルマリイナア 八銭

右交合温メテ蒸也

右ノ如クシカケテモユルミ見エス 腫物外面コハリ赤ク色トリ膿ヲモヨウサハ夫ヨリ上ニウマセ膏ヲ用ユ テリア、カ交テ用ユル也 是腫中ニフトウノ如キモ出ル事有 是ハ毛引ニテ引ヌク 抜ヌ時ニハハサミニテ切取也 其上ニ

ナマリ膏 丹膏
 ホリコス ミニイ

右ノ仕懸ニテ毒氣ユルミ見エハ上ヲ温ル也 凡ヲ焼アタ、メテヨシ 生肉見ユレハハルサム類ヲエラヒ用ユ

右等之腫物久シクカ、リ治ミヘサル時ハ喰切物貼ス

ラアヒスカウテイカ

此ヲ貼スレハ腫物善悪知ル、也 此上ニハ前ニ見エシ

スヒルテスマテリカアリス ア、クワカルシス
 アロエス メラ サフラン 焼酒

右之類ヲエランテ貼ス 是ニテ喰留又時ハ焼金ヲ用ユ 生肉マテ焼也 切取事モ有

喰抜方 ア、クワメリクウリス

又方 石灰 新生二十四銭 檜木灰 七十二銭

右二味別ニツキ土器ニ入交合トケテノチ奉書紙ニ入レテ置ハ自ツカラシツクタル也 是ヲ硝子ニ入置仕フ

此薬ヲ一日ニ一二度筆ニテ腐レノ上ニ引也 上膏薬ハ前ニ見エシ スヒルラスマラリカアリスア、クワカルシス

此類ヲエランテ毛綿ニ浸シ貼ス

右腫和キミヘハ膿セノ口膏ヲ用 其跡ハハルサムルイ余ノ金瘡ノモヤウニ治シテモ不苦 又起リテ腐見エハ前ニ見エシ

ア、クワメリクウリス 二味拵ノアリ

是モ早く喰仕カケヨシ方

又方 ^{丹凡水} ア、クワホルテス二分 アルケン
テイヒイヒイ一分

右ヨクへスリ合ホツシニ付死肉ニ貼スレハ腐
肉ヲ去 生肉ニ成ル

○ヒユル腐レヲ見ハシテヨリハ治シカタシ 腐レ
ヲ見ハ早く切取事第一之治也 腕脚ハ銘ニテ引キ
ル也 何レニ発シテモ軽カラヌ腫物ナレハ始終ト
モニ氣ヲ付テ療治スヘシ

アンヒユスシヨウ 一名コンビスシヨウ

○火焼湯焼ヲアンヒユスシヨウト云 酒油ニテモ
焼ル事モ有 此ニモ焼ヤウ軽重大小アリ 重キ
モノワヘエテヒユルコウトヒユルニ成事有 治
術ハ早く始メ終リトモ乾ス治ヨシ シトルモノ
付レハ多痛出ルモノ也

○此アンヒユスシヨウニ四通ノ軽重アリ 第一焼
所赤ク色トリ熱痛其アト水フクレヲ為ス 是ハ
軽キ也 第二焼所其マ、水フクレシテ熱痛ス
其上ナリ 第三焼所其^マ黒クトヲ作り外面赤腫
痛ヲナス 其上ナリ 第四焼甚深ク骨マテ入テ
甚乾キ外面赤腫痛是難治 是類ガコウトヒウル
ニ成也 第三ノ如クシテヘエテヒウルニ成也
第一第二之焼所ニテモ治間違ハヒユルニ成故氣
ヲ可付事也 軽キ焼所トテモ等閑ニ治スヘカ
ラス 色々ノ変証ヲ為者也

○焼所色々有中ニ筋多所ニキロウ也 何レニテモ
浅キハクルシカラス 鉄炮クスリ其湯油ナトニ
テ一身焼事アリ 所廣キモ六カシキ也 寢臥ナ
ルホトノ疵ナラハ治スヘシ 是モ病人強弱ニハ
ヨリテ老人ナトハ治シカタシ 殊ニ小兒ハ猶更
ヤカマシキ也 又ハ癩症中ニ火ニ入リテ焼即死
スル有 是モ手足ナト焼テハ持病癩治スル者モ
折フシ有也 手足焼跡ヨリ膿汁餘計出ル故也
又眼中へ火入テ一所ニ愈事有 是ハ其マ、置時
ハ一生活治セヌモノナレハ早く治ヲ成ヘシ 首ナ
ト焼テツリツケル有 甚見苦シ 是ナドノ類ハ
切りテ治ヲ成スヘシ 見シ事治スル者ナリ

○初ハ火氣ヲ去治可也 焼酒一味手拭ヨウノ毛綿
ニ浸シテ貼ス 是モ温テ付ル方ヨシ

一方 金蘆粕 一味 右酢ニテ煮ウワスミヲ毛綿

ニヒタシテ貼ス

又方 塩 ワアトル アセイチイ

右攪煮テ毛綿ニ浸シ温リテ貼ス 毎々付テ
ヨシ

ヲ、リヨム

又方 テリヒンテイナ 右一味引テ可也

惣躰焼所甚ヒテリ痛時ニハ火ニテアフル事ヨシ
初ハ少々痛トテモソロへアフレハ痛ハ止ル也
輕証ハ是仕掛ニテ治スヘシ 又熱湯ニテタテルモ
ヨシ 又毛綿上ヨリ水薬熱湯ナトハ引事ヨシ 如
此スレハ痛止ル也 大焼所ハヲシ毛メン巻毛綿ノ
上ヨリ右之如ク熱湯ニテ浸シ温ヲ入ル方ヨシ 熱
湯ニ入テ用ユル薬ノ方 葵根 胡麻仁 枯芦巴
マルメロ 此ナドノ物ヲ入ル 痛和ル
モノ也

焼所ニ一味用ル所ノ油膏ノ方

胡麻仁油 アメントノ油 ホルトノ油

白百合油 タハコノ油 アンヒユスタア

一方 ホルト油 胡麻仁 鶏卵^{白味}

右交合テ用ユ

右之ルイニテ痛止ル者也 面焼タル時ハ毛メンヲ
面ノ如ク作り目口鼻ヲアケテ是ニ薬ヲヒタシテ貼
シ上ヲ右ノ面ヲシテ巻置也 首ナトハ氣ヲマカラ
ヌヤウニ治ヲ為スヘシ 巻毛綿シヤウハ巻方ノ書
ニ審也 是ヲ考フヘシ

○焼所水フクレシタルヲツフサズ薬ヲツケテヨシ
水フクレテ敗レハ痛増事有也 付薬ハ前ニ見ヘ
タル 葵根 胡麻仁此ナドノ入タル薬ヲ付ヘシ
焼酒一味温テ引方宜シ 此類ヲ貼シテ水フクレ
敗レサル事モ有 又敗レサル事モ有 是ニテモ
痛不止時ハ

一方 胡麻油 是ヲ鳥ノ羽ニテ引テ痛止ルモ有
又 ノテリイトム ラヤホムホリコス

丹ヲ入レハ皆ミニイト云 上同

又 ミニイ アンヒユスタア

是類ヲ貼テ痛止リ皮作ル者也

右之治ニテ愈サル時ニハヒユルニ成也 其時ニハ
筋ヨリ血ヲ取ナリ 餘計取テヨシ 氣絶少モ不苦
也 大ナル焼所治セヌ時ニハ早く血ヲ取ヘシ 内
薬ハ精解ノ劑又ハ見合 軽キ下劑モ用 付薬ハ見
合ニ前ニ出シ方ヲエランテ用ユ

○焼所面部ナトハ其儘乾キテハ甚見苦シキ也
乾強クトウツクリタル時ハインクエントムエン
ンフラスノ内ニテウルヲ、膏ヲ貼スヘシ
ウルヲ、膏ヲ貼スレハヲノツカラトウツクリ
タル蓋ヲツクルモノ也 右ニテモ乾キトレサ
ル時ハ蒸葉ヲ用 是ニテ甚見事ニ治スヘシ
只コ、ニ氣ヲ用テ温メテ治スヘキ事ヨロシ
右卷モメンノ上^ウヨリ湯葉ヲイツカクル時ニハ
トウ取ル也 右ニ見シ通り也 一日ニ二三度
ホト湯葉ヲカクレ蓋自ラ取ル也 残リタル時
ニハ毛引ニテ取也 蓋トレテ後ニホウトル胡
麻仁ナドノ油モ貼ス 三四日之内ニトウコト
〜クトレタレハ跡ハヤワラカニウマス仕カ
ケヨシ ウマセニテ内ヲソヲシスルシカケ也
肉色赤クシテホ、生肉見ユハ是煉葉ヲ貼ス
一方 メリロサアロム 是ニテ腐肉トレ生肉上
リタラハ

テヤホムホリコス ノテリイトム

右之類ヲ見合貼シテ早く皮ヲ生スル仕懸ヨシ
是シカケニテハ凡ソ治スル者也

右之シカケニテモ蓋トレスコハリアリ 腫中ニ悪
汁アレハ腐レ喰入モノ也 悪汁有無ヲヨク察シ科
スヘシ 此ナドノ類アヤマリテ前ニ云シ通ノヒユ
ルト云腫ニ成也 此時ハコハリヲトカス煉葉又ハ
蒸葉ナドヒユルニ見ヘシ通りニスレハ蓋コト〜
ク取ル也 痛来ル時ニハ血ヲ取テ精解ノ内葉ヲ用
右ノ如クスレハ平愈スルモノナリ 又面部其外ニ
テモ多湯氣ニウタレコワリヲ和クル也

○タトイ焼強骨マテ入りタルトモ又ハヒユルニ
成タリトモ見舎ル事ナラヌナリ 切ステナト
シテ治ヲ為スヘシ

シユリス 一名 クヌウスト ゲスウエレン

○此腫物ニ四通ホトノ違有 クヌウトノ発リハ
先コワリ強ク痛ナク一身ニ出ル血核ノ如シ

○此腫一身ニ発シテ出来處キワマラス 腹内ニ
モ発スト也 肝脾咽頭子宮唇舌歯クキ首胸乳
脇下両内股陰莖陰囊其餘出処不互也 此証瘀
血痰ナドヨリシテ発スト云

勞ノ如シ

○此腫カンケルヒユルテ、リンキナトヨリ変シ

テ成ト云

○外面ニ出来タルハ時トシテコハリ腫痛ナク又
腫痛アリ 内腫ハ此書ニ記サズ 此書ハ外ヲ
専ニ記ス書也 腫物発シテ一年二年モカ、ル
有 永ヒクハ重キ也 散カタキ腫物也 老人
小兒弱人ハ療治成リカタシ 初ヨリ長キトテ
ステ置ス治ヲ成スヘシ

○此腫先散ス主方ヨシ 老人ニテ腫物久シキワ
ウケヲ、不可 婦人乳腫散リ葉ニテ不散時ハ
反テ悪クナル也 其上カンケルニ成時ニハ悪
クナラヌヨウニ休セテ置也 此腫新シクシテ
コハリモ少ク痛モナク平生無病ノ人ナレハ散
葉ニテ散也 内治ハ生血ヲ永メルシカ 外治
ハ散ス葉テンキテルユルノ類和カナル水銀ノ
入タル方内治清解ノ葉ヲ用ユ 内外トモ氣ヲ
用テカンケルニ成ラヌヤウニ科治スヘシ 医
人ノ心ニテ餌食ヲ用イ専ラ散ス方ヨシ
膏葉ハテラアネス

又酢ヲ煮テ其湯氣ニ右ノ腫物ヲウタシ其後卷毛
メンシテ其上ヨリウタス也 毛綿ヲ置ウタス事
ハ湯氣タモチヨキ故ナリ 酢ノ内へ入テヨキモ
ノ サンプウシ花或ヘシルウタ或テリア、カ
又方 石ヲ焼テ夫ニ酢ヲフリカケ其氣ニウタス
ル也 是ニモテリア、カ入ル也 腫上ニ上戸ヲ
アテ上戸ノ穴ヨリモウタス也

又 土器ニ硫黄ヲ入火ヲカケ其氣ニウタスモヨ
シ 是ニモ上戸用ユル事有 強テフスフル事ハ
ナラヌ也

又 真砂 或 朱砂 ケレイン十ヨリ十二 二十マテ也

右ヲ火ニ入是ニテモフスブル也

是類テ大テイコワリトケル也 是ニテ口中ヲフ
スフレハ病人ニヨリテ喘ヲ発シヨタレテ流ス者
アリ 咽喉ヲ強クフスブレハ是非ヨタレヲ出ス
也 是仕懸ニテ不治時ハ一方有

水銀少シ ヲ、リヨムテレメンテイナ

右スリ合テ貼ス 此ノ合葉ヲ一昼夜ニ二三度ツ、
咽ニスリ付ル也 此上ニテラアネスヲ貼ス

右之シカケ時トシテ忌事有 右科治ニカ、リテヨ
リ三日振ホトニ粉ヲ加ル 輕キ下劑ヲ用ユ 咽喉
ニ腫アレハ是非ヨタレクル也

註曰

右ニ云シ通りハ必ヨタレ出ル也 早く膿ス如何トナレハ余計腫レヌ故ナリ 口中臭気甚者也 凡輕粉用ル事ハ用テ後トノヤウニ有ト云事ヲ心得テ用ユ 能合点セネス用イラレヌナリ 用時モ時分善悪アリ 寒中ハ甚悪シ 殊外アタルモノ也 何レニテモ少ク用ユ 水銀スリ薬モ余ケイハ悪シ トコニテモ腫ル時ノ付膏

- ④ 辨慶草 陰干 十六錢 水銀 一錢 テレメンテイナケレインーツ

蜜 見合 右エンフラストニ煉合此膏ナメシ皮ニノヘテ貼ス 右ノ腫ニ貼テモ毎度膏ヲハキ取テ見ル也

右躰ノ証リナワリヨタレ出テモ下劑可也 下ス間ニハ水銀ノスリ薬ハ止ル也

- 右テイニテ散ヌ時ニハ病人モヨウニテ切取事モ有 カンケルニナレハ治シ難キ故ニ切取也 此ハ終ヲ畏ル、也 切跡ハ金瘡ハルサム

- 右腫物アツカヘドモ不動 夫故切取事有 弱人ハ大筋ヨリ血餘計出テ大ジナリ

註云

大筋ヨリ殊ノ外血出ル也 然レドモ血止巻モメンヨク合点スレハ畏ル、事ナシ 早く治スル也 予モ昔耳後腋下ニテ治ヲナス 其時大筋ヲ切り血餘計出タレドモ早く治シタリト云 大テイハ切ヌ方ヨシ 口切モ不用シテ和キ散ス治ヲ成 カンケルニナラスヤウニ治ヲナスベシ

- カンケルニナラントスル時ハ氣血順還スル薬ヲ專トス 食事ハ早く消化スルモノ 肉食 撰食 大麦 カフラ

大麦トリ湯 是ナドノ類平生吉

此腫ニ 虎ノ尾草 大根草 白芥子種 右ノ類ヨシ 紅毛芥子膏ヲ用ユ 能痛ヲ止

内薬 ヲクリカンキリ 毛貝ノカラ

アンテモウニイテヤホレテコム 代辰砂

右ヲ用 若痛強ハ阿片ヲ加用 又丹アマメ加用 一日ニ二三度甚痛ヲ和ル者也 此間ニ粉ヲ下劑中ニ入丸シ用 此跡ニテ血ヲ取

- 右腫物初ニハホリコス又ハ板鈇ニ水銀ヲスリ付テ貼ス 是ニテ冷シテコハリヲ解ル也 カ

ンケル前ニハ甚有効也 右ノシカケニテモ痛ミ止ラサル時ニハ油膏エンフラストノ類ヲ貼ス方

インクエントムホリコス 十六錢

阿片 ケレイン十

右ノ薬ヲ塗也

又方 酢 芦粕 ロウサ油二錢 阿片ケレイン六ツ

美人草花油二錢

右煉合毛綿ニノヘテ貼ス 一昼夜ニ一度宛上膏薬

鈇膏 サカアロムサトリノム

サカアロムサトリノム方

アマルケマンメリクウリユ ヲ、リヨム

ロサアロム 十六錢

セラアルハア 三十二錢

右エンフラストニ煉合貼ス

此膏ニテモ痛不止ハ 一方

ケン 少シ

罌粟汁 阿片

右交合貼ス 此類ニテ治セサル時ハエスカル焼金ナドヲ用ユ 是ニテ治スルケレドモコトニヨリカンケルニ成也 所ヨクバ切取ベシ 切取タラバカンケルニナラス也 跡金瘡ノ治ノ油膏ヨシ 又ハメリロサアロムハルサム類可也 焼金用テ血止ル事有 是仕カケニテ根ヲタツモノナリ 血止ノ方ニテモ留ル 何レニシテモ跡ヲ考テ治スヘシ

註曰

此腫ヲ切テ跡焼ハ無益ト云 如何トナレハ刃物モ不知 鉸モ不問シテ切取ハ思ヤウニ治セヌ也 強キ治ヲ加フレハ反テ悪クナルモノ也 為醫者随分治ヲ考フベシ

紅毛醫術聞書二卷 終

(一丁 空白)

紅毛醫術聞書

カルシノマ 一名 カンケル

- 此腫シユリスニ似テ不散不膿行スワリ不動而悪症ヲアラワシ痛出 此ヲカンケル初発ト云 筋蟹ノ脚ノ如クシテ如驚ニ痛甚強有也 此腫終リ

ニ口明モアリ 又口明サルモアリ

- 初発シユリスノ如クコハリ腫ハ細ク乾梅ノ如クシテ年月ヲ終テ次第ニ腫増脹スルモノ也 腫二三升袋ヨリ七八升袋ホトニフトルモノ有 此時ハ専ラ散シヲ用 口傷ル、事二年三年カ、ルモ有 又一年位ニテ傷ル、モ有 口傷レテハ黄汁出臭氣甚シク痛弥相増シ夫ヨリ色々ノ悪症ヲアラワスモノナリ
- カンケル初発ヨクシユリスニ似アITALモノ也 出所婦人乳ニ多アリ 又男子乳ニモ出ツ 或唇或咽或舌上鼻男女陰所ヘモ出ルモノ也
- 一躰モヨウ前ノシユリスニ似タリ 人年四十ヨリ餘ノ男女ニアリ 婦人無_レ子者ニヨク発ス 又経水不来人ニモ假有 年四五十ノ婦人ニ有リ 少キ女ニハ希ナルモノ也

註云

カンケル婦乳胸膈ニ多発ス 平生氣血不順ノ人又ハ虚弱人出處何レヘ出テモ難腫ナリ 発リ臟府ヨリ生スルモノナレハナカ_レテキワニ治セス 藥勢ヲ以テ治スヘシ □ ^(しるし) 発所キワマラストイヘドモ鼻唇咽喉手足ニ多アル也 乳ナトツヨクウチテ是ヨリシテ発スル事アル也 婦人乳胸甚難治ナリ 終ハ口傷レ翻化シテ臭氣甚シキモノ也 何レヘ出テモ初梅核ノ如クアル時切取事ヲ良トス 時々変色ヲアラワシテ色キワマラサルモノ也 齒莖ヨリモ此カンケルヲ生スト云 打身二年三年ノ後再発シテカンケルヲ為モ有也

- カンケル初発ハカユミアリ 微熱シキリ_レト痛ミ赤色灰色又ハ紫黒色時トシテ変色ヲナス 一躰腫ハスクナクテ根フカキモノ也 口傷レテハ甚ムツカシキモノナレハ初発ノ内ニ治ヲ為ス事ヲイソク也 口傷レテモ必死ト云テハナシ折々ハ治スルモアレハ氣ヲ付テ治ヲナスヘキ事也
- カンケル口傷レテハ黄汁ヲ餘ケイ出スモノ也 夫ユヘニ上ニツケテアル毛メン腐レテホカ_レト傷レル也 此ハ毒氣ツヨキユヘニネヅミノ喰ヌキタル如ク腐レ傷レル也 臭氣事ノ外ツヨク犬猫ノ腐レタル臭アル也 然レドモ急ニ死ニ至

ルヤウニ腐レ入ルモノニハアラズ ソロ_レト日月ヲ経テ腐ル、モノ也 時々変色ヲアラワシ痛甚シク熱ツヨクシテ鼠ノ喰切如クシテイタミタヘカタキモノ也 痛ツヨキ症ハ痛ニヨリテツカレツヨク毎度氣絶ヲスル者モアル也 此ラノ如ク痛強クシテツカレアル症ハ治モ叶イカタキ也 病人年若ニシテ下地タシカナルモノハ治スルナリ

註云

右腫物牛皮馬皮ナトヲ焼タル如クアル也 腕ニカンケル出ルト出タル方ノ腕ナル也 後々ハ強クイタミテタヘカタキモノ也

- 又カンケル口傷レズ痛ミナク病人タシカニシテ氣分ニモサハラス治モマチガワネハタトイ久シクナルトテモ治スルモノナリ 其内食物カマワス或蒸或散或下シ或ハ吐シナトシテイロ_レニ治ヲ加ヘタルカンケルハカヘツテ腫早キモノ也 治間違ユヘニ口傷レ色々ノ変出キルモノ也 ズイブント氣ヲ付テ治方ヲナスナリ 色々ノ治ヲ加ヘシ故ニ大切ニナルモノ也 医者タルモノ病家ヨリ礼ハウケルケレドモ一人モ今時分此通ノカンケルヲ治スル者ハアルマイト也 某ノ妻此ノカンケルヲウレウ 是ハ切テ取りタル故ニ平愈セシト有リ 病人丈夫ニナリテハ切ル事ハナラヌ也 切りタルアトイタミ出ルハ難治也 カンケル出処女子子宮口中両腋両股此ナドヘ発スルハ難ジ也 唇目乳是ナドヘ出シハ科治イタシ易キ也 此ナドノ處ハ切テ治ヲナシヤスシ子宮口中腋下ナトハ切取事ナラヌユヘニ治シカタキ也 切ラル、トコロナラハ早く病人ノ虚弱ヲ見合強キモノハ切取事ヨキ也 何シニモソル、事ハナキ也 カンケルウツルト云ケレドモウツリタルハ此レマテミス也 治シタルモノハ毎度見タケレドモ何モナク年ヲヲヘシトナリ

註云

医タルモノカヤウノ腫物ヲアツカレハ考治スヘキ事也 口ヲヤフル事大切也 腫発処モ咽喉トリワケ難治也 子宮膈下陰門両腋此ナドトテモ輕々シク思フヘカラス 又ハ陰莖陰頭^{ケイ}是ラハ糸ニ藥ヲ浸シムスヒ切事モ有也 又ハ根ヨリ切取テ治スル事モ有也

○右カンケル前ノ通りニテ治セス年久シクシテ治
セス 古ク大ニナル事アリ 又咽喉ニテ治シカ
タキ所又腋下大筋アル処ニテヲソル、所或老人
虚弱ノ人又ハ病身ノ人ニ出来タル時ハ治シカタ
キ故業コレニテ治セネハ叶イカタキ也 下地多
病ノ人ハ治シカタケレドモ止事ヲエスシテ切取
テ全快シ年久シクイキタル人モ十人ノ内三人モ
アリシトナリ

○腫物内ニ喰込モセス散モセス不動行スワリタル
ハ先性気ヲマツトウスル治可也 前ノシユリス
ニ云通りノ仕カケヨシ 此類ハ春秋ニ血ヲ取内
薬下利ノ劑ヲ用 又瘀血ヲ去生血ヲモトムル劑
可也 常ニ野牛ノ乳汁ヲ温メ飲スルナリ 又ヲ
クリカンキリ粉ニシテ野牛乳ニ入飲スル事尤ヨ
キ也 右ノ如クスレハ腫ヤワラカニナルモノ也
痛強ハ阿片ヲ煎湯ニ加入シ飲スル也 又芥子種
モヨキ也 前ノシユリスノ治尤ロシキ也 病
人強弱ヲ考ル事第一也 内治考テ治ヲナスナリ
註云

シユリス散膏貼テモ不散シテ堅リイヨ〜
盛ニナリ内ニ毒ヲ包ミカンケルニ成タルハ
治スル事甚六ヶ敷也 心一ハイニ治ハカナ
ワス也 腫ノモヤウニヨリ油類ヲ忌ム事ア
リ 其時ニハラン引ニテ取タル水ルイヲ用
ユ ア、クワラアネム

芦粕ノ醋

ア、クワカルシス ノテリイトム

車前水

ア、クワフランタアゴス サガアロムサトル
ニイ

此類之水薬ヲ見合ニ用テ甚徳有

又 サホン 水ニテトキユルメ毛緬ニ浸シ其
上ニ牡蠣ヲ細末シテフルイカケテ貼ス 病人痛
大ニナクハ寐ル事ヲヨシトスル也 阿片ヲ用ユ
レハヨク寐ルモノ也

○カンケル敗レ肉腫レツヨク敗口ヨリ汁ヲ出ス事
多キ時ニハ幾度モヌクイテトリ其アトヘ和ラカ
ナルカラメイチャヲ貼ス

カンケル痛ヲ止ル應用ノ方

ヲ、リヨムメラ

芦粕醋

一方 ノテリイトム 十二銭 ヲ、リヨムロサアシ

イ八銭

又方 ア、クワロサアロム サンフシイ花
美人草 各十六銭 サカアロムサトルニイ
阿片 四銭 テンキテユルメラ 二銭

又方 ア、クワリラアネム 四十八銭 ユスラムフロ
ンヒイ一銭
サカアロムサトルニイ五分

右何レニテモ毎度洗事也 アトヘホツシニ浸シ
貼ス

又方 車前汁

又方 青タハコ汁

又方 ソラアネム汁

右ノ汁ヲ取りカヘ付テモ痛ミ減セズ甚時ハ
右ノ汁ノ内エ

阿片 少 又 芥子ヲ葉花トモニ煎
テホツシニ浸シテ貼ス

此ルイニテモ痛減セヌ時ハ若キアタラ
シキ牛肉 此ヲ切テ腫上ニ蓋シテ巻置
也 痛止ル事妙也

又方 鈆 燒返シ 胡麻仁

右二味細末シテ交合フルイカケル也 此ニテ
モ痛ミヤマサル時ニハソラアネム水 此ヲ付
レハ痛ミ減スルモノ也 諸薬ニテモ痛ミユル
マヌ時ハイツニテモ此ヲ貼スル也

註云

カンケル口敗レタル所ヨリ悪汁出ルケレド
モ肉ミクルシク乾キ甚悪ク見ユル時ニハ
テヤホムホリコス 四銭 アマルクマンメリ
クリヨムシヨルフル ニツ

右交合メイチャニ附テ貼ス

右ノ類ヲ貼テモヤウス悪ク腐肉トモアラハ
腐肉ヲ去ルシカケノ方

テンキテユルメラ 十六銭 阿片 一銭

代ア、クワアロミノウサ

メリロサアロム 八銭 ア、クワメリクウリ
ヨム 四銭

ウエン 十六銭

右交合ホツシニ付テ貼ス 此ニテ和ニナリ
ユルミツキタラハ次ニ見エシ薬ヲ貼ス

ア、クワリラアネム 二十四銭 ア、クワカ
ルシス 八銭

サカアロムサトルニイシヨルフルーツ アンテ
モウニヤテヤホレテコム 二銭

阿片 シヨルフルニツ メリロサアロム 四銭

右交合前ノ通りニ貼ス

又方 辨慶草汁 ソラアネム汁

車前草汁 各二銭 サカアロムサトルニイ

五合

阿片 シヨルフルニツ アマルケマンメリク
ラリヨム二銭

ア、クワフランタアコス メリロサアロ
ム 各見合

右交合ア、クワトメリロサアロムトニテ加ケ
ンヲシテ インクエントムニシテ貼ス 此ニ
テモ臭氣アリ 肉ヤウス悪クミユレハ

ア、クワメリクウリヨム ヲ、リヨムテ
レメンテイナ

インクエントムヒユスコム

右何レニテモ見合ニ用ユルナリ 焼金ヲ用ユ
ル事モアリ 此ナドノシカケニテモ功ナク血
出ル事アリ 此等ハ必死ト覚悟スヘシ

血餘計出ハ其時ハ血ヲ止テ見ル也 膏藥ハ決
シテ用イヌナリ 血止應用方

ア、クワサンプウシイ ア、クワソラアネム
ア、クワフランタアコス ア、クワカルシス
各二十四銭

ノラライトム 五十六銭 アンテモウニヤテヤ
ホレテコム 八銭

セルウサ 十六銭 阿片 二銭

右交合貼ス 右血止ヲアライ取 此ラフメン
トウヲ付ル也 附ヤウ毛メンヲ四重ニヲリテ
藥ヲシタ少シシホリテ貼ス

- カンケル仕懸ヲ以テ切取ル也 取様色々法ア
ル也 内治精解ノ劑ヲ用ユ 其跡ハ瘀血ヲ去
リ生血ヲメクラス治可也

註云

カンケル切取前ニヤウスヲヨク考ヘミテ内
藥毒氣ヲ去リテ血ヲメクラス劑可也 一躰
トコトモニ都合ヨロシキヲ見合テ切取也

- カンケル切處ハ前ニ云シ如ク面乳陰莖是ナド
ニ出タルヲ切取也 切ヤウハ仕懸ノ所ニ委シ
ク書シアル也 切タルアトハ金瘡ノ通ノ治

ハルサム其外諸疵ヲ療スル如クシテヨシ 切
テ療治シヲ、セタラハアトノ養生氣ヲ付クヘ
キ事也 右治ニカ、リタル人春秋ニ血ヲ取テ
ヨシ 生付下地実正ナル人ハ療治以前下劑ヲ
用イテ下ス方ヨキ也

禁食

何ニテモ塩カラキモノ或醋酒發散スルモ
ノ或ハ油ツヨクシテ熱アルモノ諸初物ヲ
イム也 諸腫物并ニ金瘡トモ房事ヲ第一
ニ忌ム也 療治中フト淫事ヲ犯スト金瘡
針口ヒラキ血ヲ流ス也 ヨク一ツ、シ
ムヘキ事也

一名水腫ト云事

ヲエテエマ ワアテルケズウユルシン

- 腫熱ツヨク外ニ発シ又熱ナク色ツカズ 和ナル
アリ 又イタミモアリ 指ニテヲセハ指形ツク
モアリ 一躰トコトモニ腫ルモアリ 手足ハカ
リ腫ルモアリ 面部ハカリ腫ル、モアリ 痛ナ
キモノナモノナリ 一躰ハル、ヲ腫氣ト云 又
水腫トモ云^(しるし) □

- 初発ハ水鬱滯シテ其所々ニアツマリ来リ腫ル、
也 血順クワンセズシテ水濁リ筋ニタマリ夫ヨ
リシテ腫氣ヲナス 又水氣皮膚ノ間ニセメコミ
夫ユヘ血カタマリ腫氣ニナル 熱ナク冷気ヲナ
ス也 又虚弱ノ人寒ニトゲラレテ春煖ヲウケテ
腫氣ヲナス 寒中ニハヒルハヒエ夜ハ温ルユヘ
也 夫ユヘ寒中ノアタリカ春起リテ腫ル、也
夜分ハシツマリネル故ニ腫モ減シ晝又腫増ス也
喰物冷物消化セスモノヲ忌也

註云

腫ノ発リハ下部ノキリイルト云モノカフサ
カレハ其促腫氣ヲナシ夫ヨリ色々ノコト出
キテ或ハ痛ミ或ハ熱往来氣急ナトイツル也
追々腫増トキハ一身マタラ色ニナリ皮敗レ
ナトシテ水氣モレ出ル也 此ナドノ症ニナ
レハ死ニ近キモノナリ 又兩足ハカリ腫レ
久シクシテ氣血メクラス 血水腐レテ死血
ニナル也 氣血ウコカサル時ハ腫消セス
氣血ヲウコカシ水氣ヲメクラス如ク療治ス
ベシ

○熱アリテ水ヲ好ミ色々不養ヨリシテ腫ヲナス腫氣ノマヘ吐血衄血経閉或痔或産前産後ヨリシテ腫氣ヲナスアリ 又シユリス久シク治セズ或シユリスヤウノ腫物ヨリシテモ久シクシサレハ腫氣ニナル也 腫家腹部ニアリテ筋ハリアルヲ強クヲセハ腫脊ヘマワル也 夫故腹ノ大筋ヲツヨクヲス事ヲキロウ也 諸病久シク治セズ又肺病氣急発促ノ人其人躰勞レ心氣ウスクナリテ腫ニナルアリ 病後思ワズ床ナトヘ腰ヲカケヲレハ腰脚ヨリ腫ヲモヤワス 一躰血水メクラズ下腫氣ヲ為モノ也

○前ニ書セシ通り腫ノコワキコト余ケイホド指形ナカクツク也 腫余計ニテモ和カナル腫ハ早ク減スル也 血動カサルユヘニハレヲナスナリ是等ハ治シ易シ

○他病床ニツキ下部ヨリ腫ヲナスアリ 肺病氣急或ハ経ヘイヨリシテ腫ヲナスハ治シカタキ也 是モ初ハ治シ易シ 産前ノ腫胎ヲウケテヨリ腫ヲモヤウスハタトイ満腫ニナルトテモ氣ツカイハナシ 胎ヲリレハ腫ハ消スル也 他病ヨリシテ出キタル腫ナレハ六カシキ也 又子宮ヘコミツケ呼吸疼息アルハ甚治シカタキ也 是モ初ノ内ハ治シ易シ 熱少ニテモノコリヲレハ易シ又経水多有人又発血ノ人ハ難治也 トカク中年過タル人ハ治ムツカシキ也 外治ノ治間違タル人ハ難治必死ト知ルヘキ也

○治シ方色々アリ 病根ヲヨクケンミシ考テ方ヲ立テ治スルナリ 内治ハ水氣ヲ取治 外治悪ク治スル時ハ大ジナリ 足ハカリノ腫氣ニ良ハ毛メンヲ熱湯ニ入レヨクシホリ腫タル処ヲツ、ム也 足赤クナルホト温ムル事ヨキ也 温ナル毛メンヲ腫上ニ重テ其上ヨリ度々ナテル也 一日三四度ホド仕カヘテヨキ也

註云

腫上ヲナツル事氣ヲ付テナツヘシ 悪クナツレハ腫物ニナルナリ 手ヲ平シテ和ラカニナツル事ヨキ也 如何トナレハコハリタル処ヲメクラスシカケ也 燒酒類セネイフルト云 酒ニ砂盆少シ入是ニテスリテモヨキ也

○紅毛本国寒氣甚強シ 故ニ多腫ヲナス 其時ハ

足ヲ冷サヌヤウニスヘシ 少ニテモ冷ス時ハ甚悪キ也 熱湯ヲ器ニツメテ冷ヌ如クシテ腫ニアツル也 温ムレハ氣血頂還スル也 卷モメンニテ膝頭マテ卷也

註云

コハキ毛メン甚悪シ 毛モメンヨシ

○下部之腫氣ニハ上品燒酒ヲ鉢ニ入 燒酒ノ内ヘ紙ニ火ヲ付テ入其湯氣ニウタス 毎日右ノシカケヨキ也 フラントウエンヲ用テ奏理ヲ開シムレハメクリテ腫減スル也 紅毛俗方ネリトウネヲツイテ腫ノ上ニ附テ卷也 如何トナレハヨク一散スモノ也

又 鳩ノ糞 酢少シ交テ温メツクルモヨシ

又 熱藥モ良

又 イタシイノ木灰 又 鍛冶屋ノケシ水 右何レニモ燒酒明凡少シ加ヘ温メテツクル也

又 ア、クワカルシス 燒酒明凡少加テ附ル也

又方 スヒルテスヒイニイ アセイチイ 各九十六銭

生明凡 十二銭 ヒツテルヨウル 八銭

右腫ニ引テ上ヨリ卷置也 但シ温メテ用ユル也

ウエキヲイト センテンゲ テル ゲウ
リキテン

○此腫物筋骨節ノタカイヨリシテ出ル也 此症難治一通り血水ヨリシテ発スルモアリ 大底腫物熱ナシ 色モツカズ 腫ヤワラカニシテ手ニテアツカヘハイソウラニサワル如クアル也 押シテミレドモ指形ツカズ 痛モアリ 痛マヌモアリ 出処腕スネ多ハ足筋ニアリ 腫ニ大小アリテ折フシハ堅モアル也

註云

久敷シテ治スルモ治セサルモアル也 多足節ニ出ス也 指ニテヲセドモ指形ツカス 本文云如ク初発打撲或骨違タル所ヨリイソ、ヲラノ如ク出ル 其時早く蒸藥ナトニテ治セサレハ右ノ如ク腫ルナリ 節ノ腫ハ難治也

治方

カタツフリ 石灰

サルアルモニヤアカ 右搗合冷タルヲ其假貼ス

又方 カタツフリ テレヒンテイナ
フランドウエン 右交合貼ス

又方 夜牛糞 野菊
サンブウシイ花 米ヌカ
右 焼酒ニテ煉合セ貼ス 此類ノモノ何レモ
見合貼ス 腫口敗レテハ治ヒマトレハ膿骨ニ
ツキ治シカタシ 腐レ深キ時ニハ疽成也 フ
スヘ薬用テモ可也

一方 乳香 没薬
右二味

一方 肉豆寇油 四十銭 メラ
セラシテリイナ 各二十四銭 コロホラニヤ
五十六銭
ソコウ油 二十四銭 右インクエント
ムニ煉貼ス

○打撲節タカイノ処ニ濁水タマリ濁水ニヨリテ血
メクラズ コリカタマリテ腫ヲナス 又ヲチハ
ント、云 筋ニ痛アリテ腫ヲ成ス

○右腫イツ、ヲラノ如ク腫上リ右ノハント、云筋
カメクリタヘドモモノ也 ハントノ筋弱ル故ニ
強ムル治ヲナシテヨシ 此ハ六ヶ敷ト云 ロヲ
明スニ為事モアリ 又好テ口明ルモアリ 又骨
喰ト云腫ニ成ロウノ如ク成モアリ 切テ舎ニモ
及バス 其俟治スル也 濁水ノヨラスコトク治
スル也 口敗レ汁出ハ早ク膿ヲ取事ヨシ 右腫
初コワリアリ 細キ時散ス治可也 或腫大ニシ
テコワリアラハ散リ薬ヲ問ス 早ク口傷ル主□
可也

○腫毒少ク見ユレハ散ス主□可也 毛綿ヲ熱湯ニ
浸シスイフン熱クシテ是ニテ度々モミ和ラク
ル也 是跡ニ焼酒ヲ温メテスリコミテ其上ニ温
タルツクル也 一日ニ三度ホト附テ可也 此方日
数スレハコワリ解ケル也

一方 ^{コノシロ} 終 浸シタル檻百九十二銭 上酢九十六銭
野菊花 サンフウレイ花 各二握
ヒツテリヨウル 十二銭 アロミニス 六銭
右煉合温リタルヲ貼ス 煉法四半時ホト煉ナリ
此ニテ蒸 右ノシカケニテヨクハ毎度用ユル也
病人動時ハ前ノ焼酒度々引テ可也 毛メンニテ
能々巻也 冷ル事悪シ 冷ル時ハ前ノ如クニ成
難治也 昔半年ホトニ成タル治セシ也 其方

一方 金芦朮 四十八銭 石脂 八銭
没薬 乳香 各四銭

酢 九十六銭

右微火ニテ一時ホト交合 毛綿ニ浸シ貼ス
朝暮ニウチカユル也

内治清解劑或發表劑見合可用也

○是腫日数ヲ重テ前ノ主方ニ不散時ハランセツタ
ニテ口傷ル也 針深キ時ハ治シカタシ 加減ア
ル也 一躰針筋ニカ、ラヌコトク行フヘシ 筋
ニカ、レハ血余計出其上手足何レニテ引ツルナ
リ 内ニノコリタル悪汁ヲヨクシホリ取也
メイチヤテクスノルイヨシ 口膏薬ニハ明凡フ
ルイカケテヨシ アロミニスヲ付レハ内ニタマ
リタル水気アロミニスニテトレル也 上ニアル
腫ヲ下ヘサケント思ワバ上ニホリコスノルイヲ
用テ巻毛メンニテ巻置ハ下ヘサカル也 下ニ腫
サカリタル時下ニテ針行フ也 右巻タル時毛
メンカヘラヌヤウニ氣ヲ付テ巻事第一也 腫ノ口
明ルニハ下ヘナル方ヘ口明テ可也 後々ヲサ
シテ自ラ膿汁流レ出ル也 此腫アトハテヤキ
ロン或ヲシコロシノルイ良 悪物腐肉ノヨウス
ニテハルサムルイヲ貼テヨシ 大底ハ油ルイヲ
ム也 口傷レテノチ膿汁内ニカタマリテ流レ
出スハ其時カタマリヲユルメル突薬ヲ膏薬付ル
度コトニ用ユル也 其突薬ハ

一方 大根草煎汁 メリロサアロム 少シ
右ヲ突入テ洗フ也

腫物発所并ニ腫物ニモヨリテ針ヲキロウモノアリ
其類ニハ口切ヲ用ユル也 一通リ針キラワサル腫
ハ口切用イス 針行フテ可也 針ニテ敗リタル方
早ク治シテ跡々モヨキ也

註云
口起リ膿浅クミユレハ口切用テヨシ 膿深
ク見ユレハ針行テ可也 針行イタル腫物ハ
急ニウミイテ口切用イタルハセントウ
ミ出ル也 口切ニハカウステイコスヲ用ユ
ル也 口明ルモ大小アリ 大ニアケタキ時
ハ毛メンヲ大ニシテインクエントムカウ
ステイコスヲ用イ小クアケ度時ハ毛メンチ
イサクシテ用ユル也 口長クアクルハキラウ
也 久シク付テ重ハ腐レ深ク入ユヘニ時

三時マテハクルシカラス カウステイコス
腫敗レノ内ヘイラヌ如クスル事專要也

○膿汁出テ又アトヘ汁タマラヌ如ク治スル也 内
治水氣ヲ去治可也 腫物ニハメイチャヲ付内ハ
突薬一日ニ二度三度ホト用テヨシ 前ノ大根汁
メリロサアノ方可也 右ノ仕カケニテ腐去リ生
肉ニナル也 ア、クワカルシスモ用ユル也 上
膏薬ハ皮生スルヤウノモノヲ貼シテ堅ク毛メン
ニテ巻也

○右類ノ腫筋骨ノチカイ又ハ足スネクチキタルヨ
リ起リテ数々口明也 治ニキワマリタル事ハナ
キ也 腫コハリ強ク又年久シテモ治セス 其上
腫大ニ病人老人病身弱者ハ専ラ此腫ヲ為ス 腫
物中色々ノ変アル也 或ロウニナリ附骨疽ニナ
リヒユルニナル也 此ホドニナレハ死遠カラサ
ル也 此腫物中腫氣又ハ口中重舌ナドヲ発スル
モノ也 治術ハ跡ノワサゴトニ専ラアラワシア
ル也

諸腫物肉上方

テンキテユルメラ テンキテユルアロエン
ヲ、リヨムメラ 玉子油

何レモ肉上也 金瘡或諸腫ニエラヒ用ユ 此
類ヲ何レモハルサムト云

惣タイ濃深キ腫物ハ膿ヲヨク〜押出シテメイ
チャモ深くサス也 膿ヲ出シタル跡ヲ突薬ニテ洗
ウ也 突薬方

大根汁 メリロサアロン

右交合煎シ出シテ用ユル也

諸腫物皮作ノ方

惣腫物皮作リカヌルニ何レノ諸物金瘡ニテモ第
一ニ用ユルハカラメイチャ也 是ニテハ大躰乾
皮生セサルモノハナキ也 カラメイチャニテ乾
キ治セサル時ハ

一方 ヲリハアヌム コロホウニヤ

ラアヒスカナメナアリス

右ヲ極細末シテ散ニテ皮生セサル瘡ニフル
イカクル也 其上右ノカラメイチャヲ用イ上膏
見合

腫物餘肉アリテ流レスハ

一方 ヒツテリヨウル

又方 ヒツテリヨウルアルヒイ

又方 アロミニスユステイ

右何ニテモ用テ上ノ餘肉テスリ流ス也 是類
ニテ流レスハ

一方 ヘレシビタアト アロミニスユステイ

右交合餘肉ニフルイカクル也 是ニテ流レ
スト云事ナシ 見合テ前ノ三味ノ肉上皮作ノ薬
ヲ用ユル也

ヒステラア 一名 ヘイフスウエレン

○此腫物日数経シテ腐リ深ク口細クシテ堅リナ
クシテ深キ故ニスホイトニテ洗イサシメイチャ
ヲサシ膿ス 膏ヲ貼シテ前ニ書セシ通ニ料ス 此
等ノ腫口塞サカレハ痛出ル故ニサシメイチャ
ヲサシ常々ニ膿汁出ル如クスル也 サシメイチャ
ハ短カク成程和ラカニシテ指ス也

○若此腫物深クシテメイチャモ問ズル時ハス
ホイトニテ突薬ヲスル也 前ニ見エシ 大根汁ノ
入タル突薬ニテ治セサレハ

インクエントムテケステヒユム テレメ
ンテイナ

玉子黄味 各十二錢 メリロサアロム 八錢
スヒルテスヒイニ 七十錢

右交合微火ニテ煮出しテ洗フ也 内ヘツキ
コミテ其低ニ腫物口ヲ指ニテヲサユル也
半時ホトシテ指ヲ去也

又方 大根汁 六十四錢 スヒルテスヒイ 二十四錢

エレキシルフロフリタアテス テンキテ
ユルメラ テンキテユルアロエス 各一錢
メリロサアロム 十六錢

右煮出シ右ノ如クシテアロウ也 跡ヘホツシ
ニ浸シ腫物口ニツケ上ヨリシツカリト毛メン
ニテ巻也

註云

此腫物メイチャアツケ巻事念ヲ入ル也 此
腫物多ハ血道ノ大筋ノ下ヲク、リタルモノ
ナレハミタリ切事ハナラス也 若アママツ
テ大筋ヲ切時ハ血多ク出ル故也 サクリノ
アトノ耳ソヘ糸ヲ通シ其糸ノ末ヲムスヒテ
糸留スル也 腫物穴コトニサクリヲ入糸ヲ
引通シテ置也 膿出テ後穴細ケレハ針小穴
大ナレハ針大ナルヲ用ユル也 右ノ穴裏表

ニ通リテヲレハ糸ヲ通シテ針ハ切テ取也
片ヘハカリニ穴ニツ三ツ明テヲレハ指ニテ
ヨク〜アツカイミテランセツタニテ切口
敗ル也 又右ノ穴コトニ糸ヲ夫々ニ通ス時
ニハ膿汁出ヨキモノ也 膿汁出タルアトヲ
突薬ニテアロウ時ハコトノ外有効也

或説

穴深く敗レセイニユヘエスノ下ヘ深く敗レ
肉厚ク皮アツクシテウサキノ穴ノ如ク四方
八方ヘ敗レルモノ也 其時ノ仕カケ馬ノ尾
毛ニテモ絹糸ニテモ大小ノ疵敗レニ應シテ
糸ニテモ馬ノ尾毛ニテモサクリノ末ノ耳ソ
ヘ通シテ疵敗レニサクリコミ糸ヲ引通ス也
穴余ケイアレハ穴コトニ夫レ〜糸ヲ引通
ス也 若片ヘハカリ穴明イト通ス事ナラサ
レハ其向ヲ指ニテサクリミテ新ニ穴ヲ明ケ
是ニモ糸ヲ通シテ治ヲナス也 糸ヲ通ス仕
掛ヲ スヌウルダラクト云

○右註ノ仕カケニテ治シロツル軽キ腫ノ通ニ治
ス ○合印

○ヒストルヲ治スルハ惣躰仕懸コトニテハ治セヌ
モノナレドモ科治ハシテ見ネハナラヌモノ故ニ
イロ〜治ヲ成ス也 穴下ヘムキテ敗レタルヲ
前ノ通ニテ治サセレハ穴ナドマテ切敗ル也

○右之腫敗レニソロ〜ミヅサクリヲ入テ切事法
也 又サクリナシニモ切事モ有 其跡ノ藥ハ見
合之膏ヲ用ユ 始終膿タマルヲキロウ也 穴ノ
敗レノマワリ肉薄ケレハハサミニテモ切也 肉
厚キ時ハ痛ムモノ也 先始ハ口ヲ廣ク敗ル治可
也

註云

先ヒストルヲ廣ムルニハ右本文ニ云シ如
クランセツタ ハサミ ソリロウ切ノ類
ノ道具ニテ切敗ル也 其内カンチンノ道
具ニテ辨ナルハホソキ厚キソリ也 此厚
キホソキソリ先二寸ハカリ出シテ本ヲマ
キミソサクリヲマゲテ敗レロニイレミソ
サクリヲ定メニシテ切也 是ナレハ定ア
ルモノ故切タキホト切ラル、也 穴成程
細クシテ切道具入ニクキナラハマカリス
クイナクハサミモ可也 勝手ヨキホト腫

物ノヨウス次ニ切テアトヲ治方ヲナス也

○右十分ヨキ程切敗リ療ス 血余計出ルモノ也
毎度此通ニアル事ナレハ合点スヘキ事也 先血
止ル治可也 血止リタラハ跡ニ敗レーハイカラ
メイチャツムル也 夫ヨリソロ〜トウマセノ
膏ニヘレシヒタアト或エケヒシヤコムノ類ノモ
ノ少シ交合テ貼ス 右ノシカケニテ他症出スヨ
ウスヨクハ前ニ見エシ輕キ治可也 又ロウ腐レ
深ハ此通ノ仕懸ヨキ也 追々ノ治ハ大躰餘腫ノ
治ニテ可也 骨喰ヒユル等ノ治方ヲ考テ用ユヘ
キ也

クハアトア、ルデケエン ハルトネツキ
ゲスウエ、レン

○此腫物難治也 此腫昔ヨリ頭ノクタクホルト工
夫シテモ治セスト紅毛ニテモ云傳フ 今年漸口
夫ヲ付テ療治スル也 今ノ治悪症ノ止ル如ク料
ス 切テ取ナト、云 治是迄一向ナキ事也 昔
ヨリ今ニ至テ此腫何トシテ治セスト疑フ 膏薬
モナキヤト云 此腫物惣身ニ毒氣満チル也 カ
リイス又カリストモ云 梅毒水腫ノ類也 瘀血
アリテ熱強キモノ也 カンケル此等ノ類ハ治シ
カタキモノナレハ氣ヲ付ヘキ事也 今時ノ医人
花美ハ好ムケレドモ此等ノ腫物治スル事ハ知ラ
ス 諸薬ニアツケハカリシテ腫ノ根元ヲ知ラヌ
故ニ治セサル也 平生氣力盛ニシテ躰丈夫ナル
人ハ必治スル也 其上克工夫シテ治スヘキ事也

○ヒステル深くシテコワリ有 肉腐リ骨ニツキ穴
中蟲ヲ生ル類アリ 又血熱盛ニシテ餘人ヨリ移
リテ此症ヲ為アリ 梅瘡ノ類カト云 病人タル
モノ平生身持悪クシテ起ルアリ 又婦人閉経ヨ
リシテ起ル有 肛門大腸ノ末ニ大筋アリ 此筋
カ塞カルト此ルイノ腫色々ノ難症ノ腫ヲ発スル
モノ也 此ナドハ内外医ナド氣ヲ付テ治タラス
治ヲ為スヘシ スイフン喰事ヲ進メ躰ヲ丈夫ニ
スル事始ノシカタ也 他ノ事ハ舍置躰丈夫ニナ
クテハ治ハテキヌ也 内治ヨリ外治主談専ラ也
先腐レヲ去リ乾ス治ヨシ 始ヨリ強キ治ナスヘ
カラス インクエントムテヤホムホリコス又ハ
前ニ云シ水薬ノルイ或ハルサム此類ヲ口明タル
ニ貼ス 又腐レヲ去リ生肉ニスル治ヨシ イン

クエントムテケスノルイ可也 膿スルドニ毒気少クミユレハ其時テケスニコロホウニヤ又ハ焼酒ヲ合セテ貼ス

一方 緑青 ウエン

右二味微火ニテ煮テ用ユ

此ナドハ痔ロウノ治ニテモ可也 口十分ニ傷レタレハハルサムヘルヒヤアノム又コツハイハム其外相應ノモノヲ用ユヘシ 食事腹内ニテヨクへ消スルモノヲヨシトス 胃中ニテ不化モノヲ忌キロウナリ 椽ノ肉麻ノ油気ノモノヲ忌ム熱勢アラハ熱アルモノヲ禁スル也

○此腫物前ノ如クニシテ

リウマチイカト云

黄汁ヲ出ス 此症ニハ多渴アレドモ湯水ヲアタヘル事ヲ忌キロウ也 湯水ヲ多アタウル時ハ水瀉ヲナス也 内治ヨリハ兩便ヲ通スルモノヲ用ユルユヘニ湯水ハ決而飲マサレヌ也 主剤ハ腹中ヲ清クスル剤可也

一方 船アマメ

右焼酒ニ二三度ヒタシ乾シテ用ユル也 能小便ヲ通利スル也

又方 ハルサムヘルヒヤアノム

又方 テンキテユルシユクシニイ

又方 テンキテユルメラ

右何レニテモ見合服スヘシ 何レモ克水気ヲ通利スル也

渴アリテ水湯ヲ好メハ

一方 大麦

右一味煎服シテ可也

外治ハ上ヲ乾ス治可也 外治應用ノ方

ラアヒスカナメナアリス ア、クワカルシス

ヲリハアヌム コロホウニヤ

テヤホムホリコス

右見合貼ス 膏薬ナラハ右何レナリモ交合テ貼スヘシ

○此腫内へ喰入時ハ血ニ酸味出来ル也 是毒気強キシルシ也 内治第一 此酸味ヲ敗リ去治可也 多土伏令剤ヲ用

應用之物

大根艸 乙切草

右何レニテモ見合煎服スヘシ

惣躰此症ニハ下剤ニ輕粉ヲ加テ服スヘシ 下剤ヲ用ユルト血ノ酸氣自ラ去モノ也 酸氣去時ハ腫物モヨク成モノ也 外治膿ヲ乾ス主談可也

○此腫多面ニ出テ腐深ク入モノ也 大人小兒ニ出テ熱ツヨク毒氣フカキモノ也 山歸来ヲ入下剤ヲ用ユ 小兒ナラハ母親ニモ下剤ヲ用ユル也 下剤ヲ用ユル時ハ酸味去ル也 外治應用方

一方 玉子油 蟬

右二味交合筆又ハ鳥ノ羽ニテ一日二三度引也 インクエントムホリコス ア、クワカルシス インクエントムリツタリケケリアウリイ

右何レニテモ見合貼ス

若面皮一ハイ腫ル時ハ卷毛メンニテ卷也 焼所ヲ卷如ク毛メンヲ作ル也 第玉子油有効也 毒気強時ハインクエントムヘレシヒタアト交合テ貼ス早ク乾度時ハ

ラアヒスカナメナアリス ヘレシヒタアルト

右之類ヲ牛ノ乳汁ヲ以テネリテ引也

白鈷 右一味モ引也 ヨク乾スモノ也

○此腫内外トモニ毒気強ク腐レ深ク入時ハカンケルニナル也 其時ハ前ニ書セシカンケルノ処ヲ校テ治ヲ為スヘキ事也 其治ニテモ治セサル時ハ燒金ニテ燒カ又ハ切テ取也 此治ニテハ治スル事有也 跡ヘノコラヌ如ク切ルヘキ也 應用ノモノ

ア、クワカルシス ア、クワメリクウリス ア、クワアロミノウサ

右類何レニテモ見合貼ス

ア、クワデヒイニイヘルネリイノ方

ア、クワカルシス 九十六錢 ソツヒルマアト 五合

右温メテホツシニ浸シテ貼ス

右ヲ貼テモ毒氣去ラサル時ハ ソツヒルマアトシコルフルニツヨリ一錢マテ 此ニテモイヨへ毒盛ニシテ治セサル時ハ 燒酒 八錢ヨリ十錢

右前ノ上ニ加ヘテ交合貼ス 少ニテモ膿類ノモノヲ禁ス

○腫物初ニ治間違ハ色々ノ症ヲアラワシユクへハ壞症ニナリテ治セス 深ク敗レ腐肉出テ、嗅

気ツヨキモノ也 其時ハ腐ヲ去リ生肉ニナル治可ナリ 暑中ナトニハ久シク治ヲナサス 舎置ハ蟲ヲ生スル也 夏軍ナトノ時久シク治ヲナサアルハ必此症ヲナス也 治ニカ、レハ一日ニ一度ツ、是非トモアライ巻カヘル也 ① 合印

註云

右腫物臭気イテ漸々腐レマシコウトヒユルニナル也 巻モメンヲ取り度々アライテ付薬ヲ取カヘテ巻直ス也 膿汁カハリテ白油膿ニナレハソローへト治スル也 膿ノ色合ネマリニテ腫物ノ治不治知レルモノナレハ見分テ治ヲナスヘシ 毎度膏薬ヲ付カユルヨキ也 毎度云コトク腫物敗レ骨ニツキル悪シヨウノモノニハ油氣ヲイム也 其時ニハ煎湯薬ヲコシラヘテアライ又ハホツシニ付テ貼ス 應用ノ物

テンキテユルメラ テンキテユルテア、カエケヒシヤコム ア、クワテヒイニイフルネリイ 此類ヲエラヒ用ユヘキ也 此ニテモ治セサルアマリツヨキ薬ヲ用ユヘカラサル也 其時ハ焼スク治ヲナスヘシ 紅毛綿ニ火ヲ付テ焼治アル也 世上医タルモノ色々ノ治ヲナシ間違ナトアリテ蟲ヲ生セサシソローへト腐レマシ大切ニナル有 是ハ前後ノ考モナク治間違故也 兎角膏薬ヲ度々附ケカユヘキ事也 蟲ヲナスハ医人アヤマリナリ 腫物ニハヨラス也 別テ暑中ニハ蟲ヲ生スル事毎度アルモノ也 夏軍ナトニ疵ヲコラムリ日ヲヘテ臭気テキ蟲ヲ生スル也 治ヲナサズ舎置ニハアラネドモ陣中故事ニ取紛テコノ如キ事アル也 又一熱熱ヲヲヒタル生レツキニテ此熱ユヘニ腫モ他人ヨリハヤク臭気イテ夫故蟲ヲ生スル也 折フレハ此類アリ 何レノ症ニテモ蟲ヲ生スルニハ度々アラフ事第一也 洗薬ニアロエンノ類ノ苦キモノヲ入レハ蟲ソローへト失ルモノ也

○右腫物臭気ツヨキ腐肉アルニハ膿セ膏薬ニエケヒシヤコム又ハウユルツヲ交合テ貼ス 是類ニテ腐レ流レ去ルモノ也 夫ヨリハ肉ヲ生スル方可也 ア、クワフルネリイ 是類ノモノヲ貼スレハ腐肉ナカレ生肉日アラサシテテキル也 ①合印

註云

右本文ニ云 膏薬ニヘレシヒタアト 余訂交テ用ユル事ヲイム也

メラ アロミニスユステイ

右二味散ニシテ交合セ貼スレハ腐肉ヲ去リ生肉ニナス也

○右ノ腫腐肉アルニハヘレシヒタアトヲ粉ニシテフルイカクル事モ有也 又膏薬ヘレシヒタアトハ交合貼スル事モアリ 見合テ用ユヘキ事也 膏薬ノ上ニ焼酎ヲ毛綿ニシタシテヨクへシホリテ上ニカフセ置事モアリ 腐肉取レシヨリハインクエントムテケステイヒユムヲ貼シテヨシ此ヨリハ治他腫ヲ考テ治スヘシ 医ノ間違ヨリシテ変症イテ難治ニナル事ナレハ医モ吟味シテ頼ムヘキ事也 此類ニハ輕粉剤ヲ専ラ用ユル也 腐レアリ骨節ノ痛ユヘニ他薬ニテハ治ヒマトル也 輕粉剤ニテ急ニ治スル也 病人強弱食不食ヲ考テ治スヘシ 弱者ニハ輕劑決テ用ユヘカラス 梅毒カト云

註云

右腫骨筋痛ミ腐レツヨキハ輕粉ノ力ヲカサレハ治シカタシ 粉ヲ丸ニシテ一日ニ懸目 一拂六合六才此ニツ分テ用ト也 粉ヲ用ユレハ咳ヲ為ト云 輕粉丸モ麦粉テネリ又痰切或饅頭ナトノ内ニ入テ用ユト也

ヘエニススウエレン

○此腫物発所キワマラストイヘドモ左右内股陰莖ニ出ル也 此所ノ出ルヲシヤンカルスト云 婦人陰中鼻中口中ニモイツル也 発處違トモ治ハ大テイ同シキ也 内治専ラ下剤ヲ用ユ 此ニテハ外治ナリ 内治ノ専ラ治スヘキ也 毎度下シヲ用イテ下毒シ腹中ヲ淨クスル治可也 又輕粉ヲ丸ニシテ用イテモヨキ也 瘀血ヲ去リ生血ヲ止ル治モナス 或ハ弱強ヲ見合テ発汗剤ヲ用テ汗ヲ取治モ為也 朝汗ヲ取シカケヨキ也 食物塩ツヨキモノ油類ヲイム也 輕症ハ発汗下剤一通リノ治ニテ治スルケレドモ年月ヲカサネ毒ミチタルハ喘薬ニ輕粉ヲ入テ用イサレハ毒ハヌケヌ也 此腫物口中ニイテ咽喉舌ナト痛ニハ一方 ア、クワヒリイデスハルトマニイ 又方 メリロサアロム

右ノルイヲ見合 是ニテ洗フ也 其跡ニハ

一方 テンキテユルメラ

又方 テンキテユルシユクスニイ

又方 ヲ、リヨムメラ

ヲ、リヨムメラ拵様

玉子ヲ煮黄味ヲ去リ其アトヘメラ一ハイツメ
テ上ヨリク、リ下ニ湿気アル処ヘツリヲケハ
自ラ汁下ヘツル也 是ヲトリテツカウ也
此油久シクナルハ悪シ 用ユル時分ニ作ルナ
リ

此類ヲ何レニテモ貼シ外ハ膿ヲ持ス膏可也

インクエントムテケステイヒヨム インク
エントムハシリコム

何レニテモ見合ニ貼スヘシ シヒタアト交合
テヨシ 是ニテ腐肉トレ治スヘキトミユルナ
ラハ

テンキテユルメラ テンキテユルシユリシ
ニイ

此類ノモノ可也 前ニ見エシ皮ヲ生スル散薬
モヨシ 又メイチヤニヘレシヒタアトヲ振イ
カケテ付ルモヨシ 或ハ散薬ニヘレシヒタア
トヲ交合セテモヨシ 是類ニテ必乾クモノ也
又ア、クワハゲダニカヲモ用ユ 毎日付変テ
ヨシ

ラアヒスインプルナアリス

此ハ銀ノヤスリ粉也 是ニテ疵ノ上ヲナツル
トシユツト云テ腐肉ヨリアツマル也 此ヲ用
イタル跡江

一方 インクエントムホリコス 八錢 アルケンテ
ルヒイヒイ 八錢

テレメンテイナ 八錢

右乳鉢ニテスリ合セ貼ス

又方 石脂 二錢 アマルケマンメリクウリヨム
一錢

インクエントロサアロム見合

右交合貼ス 若舌腐レミヘハ焼金ヲ用テヨシ

又方 丁子油 ア、クハテヒイニイ

右見合附ル也 若両内股ナト乾カズ爛レアラ
ハ焼金用テ良 又灸モ可也 焼金アマリ強ク
焼ハアシ、大底コラヘラル、ナドカヨキ也
水出ルモノ也 一度ニテ乾カスハ二度三度用

テ可也

○前ニ云シ如ク此腫物舍置ハ根ヨリ切レ落ル也
腫ノワキヨリロアキテサラト水出ルナリ
其後ハ頭マテ腐レ入リテカンケルノ如クナルナ
リ 又シユリスノヤウニモナルモノナリ 右ノ
如ク陰頭マテ腐レ入リテ見ユレハ早く陰莖ヲ切
テスツルナリ 是ナドヲ切事ハ手業ノ部ニ委シ
ク出テオルナリ 考テ切ルヘシ 又是類ノ腫物
鼻中ヘ入事アリ 甚タシク嗅気ヲナス 鼻腫ニ
ハ前ニ見エシカギ薬ヲ用ユルナリ 右ヤウノ瘡
ニテ鼻落ルモノ多クアル也 咽喉中ニ此通ノ腫
ヲナセハ穴アキテ鼻中ヘヌケ飲食トモニ鼻中ヘ
出ル事アリ 或右テイノ瘡頭中ニ出ルモアリ
頭腦中マテ腐レ入ルモノ也 何レノ處ヘ発シテ
モ甚タ難治也 科治手扱アレハ垂死心得ヘキ事
也

註云

本文ニハ輕ク書ス 前ニ云シ通りナレハ右本
書ノ通り科治ス 他ノ治ヲ為スヘカラス 病
症暇ヲ取りソコナフ事ナカレ 此腫内科第一
也 外治ハ内治ニツクナリ 鼻ノ腫物ハヲセ
ナト云 大ジナリ 堅キカ如クシテ又和ラカ
ナリ 此ニハカキ薬ヲ用ユル也 此証多梅毒
ヨリ為ス 鼻ハ肉少ナク皮骨ハカリノ處ユヘ
傷レアレハ治シカタシ 骨スイマテ喰入ルモ
ノナリ 何レニモカキ薬ヨキナリ 用様ハ別
書ニ詳ニアリ カキ薬ヲ用ユルニニモ火ヲ遠
サケテ鼻穴ハカリヘ煙ヲ入レテヨキナリ

嗅薬 メラ ヲリハアヌム 辰砂 又朱

此等ノカキ薬ヨキ也 腐レ留ルモノ也 脚ノ
腐レニ用ユル方ハ他書ニ見エタリ

ユルセラア カロサ

○是ハ腫物口敗レテ跡ノコリカタマリタルヲ云
此コワリ取ヤウ三通リ有 先クヒ敗ル薬ヨシ
コハリスクナク和ラカニシテ不久者ニハ

アロミニスユステイ 又 ヘレシヒタアト

此類ヲ用ユ 又右二味等分ニ交合用テモヨシ 卷
カヘル度毎ニ振懸テ付ルナリ 又ハ膿薬ニ交テモ
ヨシ

又 エケヒシヤコム ウユルツ

是ラモ毎日付テヨシ 此ニテコハリトクルナリ
強クコハリアラハ

ヘシヒタアト コハリスクナクハ ヒツテリヨ
ウルアルヒイ

右ニテ毎々ナツレハコハリトクルナリ 若不治時
ハ

ラアヒスインフリナカリス

右ニテ日々ナツレハコハリトクルナリ

又一通り穴アキ漏ニナリコハリタルアリ 前ノ通
リノ治方ヨシ 穴明タルニハサシメイチヤニエケ
ヒシヤコム付テ指スナリ 軽キハ此ニテ治スルナ
リ サシ薬強クセント思時ハエケヒシヤコムヘレ
シヒタアト又コルクウタルヒツテリヨウル 又ハ
ラアヒスインフリナアリリス 是ヲ見合交合テ用
ユルナリ 此類ヲコワリトクルマテ付ルナリ サ
シメイチヤサスケルトモ穴深クシテト、キカタキ
時ハ

エケヒシヤコム ウウルツ

右何レニテモフランドウエンニ交合スホイトニテ
毎々アロウナリ 又ハ

ア、クワハケタニカア

右ヲ突込置指ニテヲシコミ付ルナリ 是ニテモ治
シカタキ時ハ前ニ云 穴深キヒストルノ如ク治ヲ
ナスナリ

註云

前ヒステルニ云如ク久シクコワリアルハ急ニ
治シ難キモノナリ 腐肉穴ノ内ニアリ 其上
コワリタルハ治シカタキモノナリ 治方

ヒユスコム エケヒシヤコム

右二方ノ内ヘアルヒイヲ加テ煉リツメ指ノ如
クニシテ指込ナリ 此ヲサシ置時ハ穴ノ内ノ
腐レトロケ自ラ生肉ヲナス 疵内ハ以ノ外痛
ムモノナリ 此サシ薬ヲサシ穴ノ先ヲ指ニテ
押テ見ルナリ 加ケンアル也 指薬スル時穴
モ自ラ廣クナルナリ

右ノ腫久シクナリコハリ有ハ久シクカ、リ病人以
之外退屈スルモノナリ 前ノ通色々治ヲナセトモ
腫物コト之外深キ故ニソコマテト、カヌナリ 右
ノ通強キ薬ハカリ付ル故ニセイニユウヘカ、リ時
トシテ大ニ痛ム 或ハ筋引ツケニ由テ外証出来
ルナリ 前ノヒストルニ書ス通り切明治ヲ成ス穴

明タルタケ切舎ツルナリ 氣ヲツケ大筋ヘエセン
又ハセイニユウヘカ、ラス如ク切ルナリ 切明ケ
タル時ハ付薬ヨクコタヘルナリ 腫物メクリノコ
ハリハ切物ニテ切也 其跡ハ前ニ云シ如ク喰敗ル
治ヲ為ス 右ノ如クスレハ擬トレトレルナリ コ
ハリ取レタラハ餘ノ腫物治ノ如ク考テ治スヘシ
註云

右腫物穴ノソコマテ切タル時強薬ハイラス
モノナリ テケスヒイヒユム可也 軽ク治
ス仕カケヨシ 軽キ方ハ前ニ云糸ヲ通ス
ヌウルダラクトノ方也 此ハ内ノ悪肉ヲ去
リ新肉ヲ生スル仕カケナリ

右腫コハリツヨク前ノ通りニテ不治時病人元氣盛
ニシテ大筋切テモ不苦ト云ホト強人ナレハコワリ
ヲ根ヨリ切取テ舎ル 又ハ焼金ヲ以テ焼切也 前
ノ治ニテ不動時ハ此治可也 跡ハ金瘡余腫ニ同シ
骨ヘ喰入腫脚ヘ喰入腫病身梅毒水腫是等ノ人ニハ
右之治甚タイミキロウ也

古キト云事

フルヲウデルテサ

出物ト云事

スウエレン

○此腫物一身発出スル 処極ハマラス 其内ニモ
多脚ニ出ルト云 前ニ書ルセシクハアトア、ル
デゲエンハルトネツキゲスウエ、レンノ起リニ
大テイ同シヤウナルモノ也 血性スルトニシテ
穴アキコワリ有モノ也 婦人ハ閉経スルモノナ
リ 経トチタル間ハ治シ難シ

○此瘡古クナリ治スルカ治セサルカ工夫ヲツケ
テ云時他病ナクシテ腫物ハカリナレハ治スルナ
リ 他病有人ハ治セサル也 必ス近キニ死ス
又大老虚弱ノ人モ治セズ 如何トナレハ毒氣コ
ト故剛虐ノ剂ヲ用ユル故老人虚弱他病ノ人ニハ
下剂用イカタキ故治叶ワズ 毒氣ハヤク身中ニ
走ル故ニ一通リノ事ニテハ治セス 此ヤウナル
病人多ク数年手ニカケシ故覺ヘアルト云 又年
モ若ク其上堅固之人ニテモ體ヲ養テ治ヲナス也
内治ハ薬ニ氣ヲツケ外治ハ外治ノ仕懸ニ心ヲツ
クヘキ事也 此様ナル毒氣ツヨキ腫物ニハホン
タネレンヲ用ユル也 ホンタネレントハ腫物ノ
毒ヲ他所ヘ轉シテ膿ヌク事也

ホンタネレンノ仕懸

先後髮際腕脚膝之上内モ、ニテヨク一サクリミ
テホカナル所 又膝ヨリ下ニテモクホミアル処
ツトスネノ内ナトモ指ニテヨク一サクリミテ針
サス也 針所違ハハ悪シキ故氣ヲ附サクリミ動シ
ミテ引ツラス所へ針ヲ用ユル也

○能々サクリミテ針スル所キワマリタル時上ヨリ
點ヲサシ其點所ヲ指ニテ引上エントウ豆入ホト
針ニテ深クサス也 其針跡ヘエントウ豆ニハシ
リコンヲヌリテ入置 卷毛綿ニテ卷置也 針浅
ケレハ悪キユヘニ癰切ナトニテ深ク切事ヨシ
若エントウ豆ナキ時ハ木ニテエントウマメホト
ニ作りタル丸メニハシリコンヲヌリテ入ルモヨ
シ 針所強クサスハ悪シ 強クサス時ハエント
ウ豆トビ出ル也

○内治ハ病人ニ食ヲ進ムル仕カケヨシ 食物様肉
之ルイハ決シテ忌ム 是腫物見合悪シクナレハ
早く下劑ヲ用イテ下シ其跡ハ夫々ノ宜シキ治ヲ
ナス 病人血ノ盛ナルハ血ヲ緩メ毒ノ去ルヤウ
ニ治ヲナスヘシ 毒深ク入時ハ内治如何トモス
ル事ナシ 先利水之劑ヲ用ユ

○此腫物ハ早く臭氣ヲ去リ乾カスヤウニ仕掛膿汁
ナカレハ度々ノコイテ取ルナリ 先 貼スモノ
ニハ

カラメイチャ テヤホムホリコス
ラアヒスカナメナアリス

此等ノ類ヲ用ヒテヨシ 病足冷ル事悪キ故ニ湯
ニテヌラス事ヲ禁ス 全體痰氣ノ有人ハ疼氣ヲ
消シ他病ノ付ヌ如ク治ヲナス 又腫物勢イ強ク
濕氣アレハ此時ホントネレンヲ用ユ 毒汁ヲヌ
キ取仕懸ヨキナリ 此腫物ニ痛ミ來ルハ如何ト
云ヘハ打タリ突タリ冷タリナトシテ痛ミクル也
冷水カ、リテ痛ミ出ルアリ 其トキニハカンフ
ルフラントウエン毛綿ニ浸シ度々附置 病人寐
ル間モ冷ス如クスル 温メ少シ汗サス方良也
此通科治スレハ大ガイノ痛ハ一兩日ニ取レル也
痛ミサカンナレハカンカレイナニナルナリ 初
ヨリ腫物取扱ハヘイテヒユル之通りニ仕懸内外
トモ氣ヲツケ治ヲナス 内藥發散之藥ヲ用ヒ内
ヘ入ヌ様ニ療治ス 是腫コウトヒユルニ移ト治
不叶也 此腫物老人虚弱之人ニ自ラ出テ腫物乾
キ色青ク成テ膿汁出サレハ前ニ云コウトヒユル

ニナレリト知ルヘシ 此ナド之類ハ多クコウト
ヒユルニナリ絶食シ危篤ニナリテ内外色々治ヲ
ナシテモ不治ト云 其時ニハ水フクレノ葉ヲ用
カンタアリニス

此ヲ上ヘフルイカケ其後膿ヲ持シ科治ヲナス
若シカンタリニスニテモ汁ナキ時ハ治叶ワズ
汁有時ハ少シ面白シ

註云 此病人勞レ強キモノ故ニコウトヒユル
ニナラス様ニ治ヲ為也 煉藥ヲ以テ治ス 油
氣ヲ忌也 油ナキテキスハ苦シカラス 外ノ
モノハ用イス コムテレヒンテイナ
メラ スヒルテスマテリカアリイ テン
キテユルテリア、カ 此類ヲ選ヒ用ユ 又
交セ合セテ遣フ事モアリ 一味宛用ユル事モ
有 或ハ又腫物口敗レ惡肉アリテ内見苦シク
コハリ古ワタノ如クニアラハランセツタニテ
生肉ノ処マテ切付夫ヨリ右ノテキスヲ用ユレ
ハ膿ヲナス也

一名脚ト云事 喰ト云事

カアリイス ベーン フレエテル

○此腫物初発甚シク時トシテ治シ兼ル 何レ之
葉ヲ附テモ相應セズ 此類ハ金瘡後腫物ニナ
リ脚子腐リ或ハ腐レスシテ治シカタキ有 前
廣ニ治ヲ為事ヲ良トス

○スベテカアリイスト云ハ足ノ皮肉取テ骨アラ
ワル、モ之也 次第ニイロ一悪シキ色ヲナ
シ青クナリ白クナリ黄色ニナリ後紫黒色ニナ
リ腫ナク地並ニナリ惡汁ヲ流シ臭氣甚シキモ
ノナリ 俗ニ脚腫ト云 金瘡一度治テ其跡此
通りニナル有 一度治シタレドモ骨肉ノ間ニ
毒アツマリ又此通りニ腐レヲナシホツレル也
此腐レヲ取テノケネハナラヌ也

○カアリイスニハ色々種々ノ名アリ

一名 スヒイナヘントウサ 外ヨリ起リ内ヘ
腐レ入ルヲカアリイスト云 凡毒ヲ内ヨリ発
シ外ヘ出ルヲ スヒイナヘントウサト云

○脚打疵突疵ナドニテ皮肉破レ其疵口ヲステ置
夫ヨリ風入テカアリイスニ成 又骨近キ所ヘ
油氣スル時ハ症ニ由テ腐入カアリイスニ成也

註曰 何ニテモ油氣強者直ニ骨ニ通ト悪キ

ナリ 骨ニカ、ル腫物ニ油氣ヤル時
ハ何ニテモカアリイニナル也

- 皮肉傷レヲケレドモ骨ニ薄キ皮カフリ居リ
夫ガ痛ム也 是ハ毒氣アツマリ痛ム故腫物ニ
ナルナリ 夫ヨリ腐来リ追々内へ喰コム也
- 骨之腐ル、ニハ種々ノ色ヲアラハス也 先初
軽時ハハゲタ骨黄色ニナル 是腐レノ初発也
黄色ヨリ腐レソメテ又黒ルナル 是カアリイ
スト云 又骨地並ニナクシテ穴明是第一腐レ
強キ時也 一番ニ頭之腦カラ脚是二所大□ナ
ル所也 又クヂキタル跡右之如クナル是六ケ
敷ナリ

註云 ソウ別カアリイスト見付ヤウス悪ク
危篤ニ見ユル時ハ腐レノ内へ入ヌヤウニ早
クツガイヨリ切テ取ナリ 此通りニシテ命
ヲマツタクスル也

- 此腫物腐ル、ニ二通り有 骨ノ見ユルアリ
又見エヌアリ 骨見エ色變リ骨之色ニナリ黄
紫色又黒色ニシテ地並ニナリ骨ニ穴明テ水ス
イテ見ル如クアリ 又肉厚キハ骨見エカネ出
ル膿汁油之如クニテ紫色又ハ黒色ニシテ嗅氣
有 メイチャノ膏薬取テ見レハ黒キ膿汁付テ
クルナリ

註云 メイチャノ膏薬嗅氣有テ黒色ノウミ
付テクル 是カアリイ也 余ノ腫物ニテ
モ黒ミ膏ニ付テクレハ是カアリイニナリ
シト知ルヘシ

- サクリヲ以テ骨ヲサクリ見ルニ皮ハケシ骨高
下有テ骨出ルハ是カアリイ也 此腫物ノ肉
和カニシテ肉モ水スイノ如クホク〜シテ嗅
氣甚シク治シテモ又間ナク早くホシレテクル
ハ是カアリイ也

- 腫物口愈兼骨ニ腐レヲサソイ次第々ニ骨ニ腐
レ入ル也 或ハ打疵突疵ヨリ起ルハ早く切テ
スツレハ良 切事ヲソキ時ハ骨ニ腐レ入死ニ
至ルナリ

或云 頭腦腐レ大ニ頭痛シテ寝ル事ナラス
耳鳴色々ノ事出ル也 右之如キハ治シ難シ

註云 此証ハ内治専也 外治軽キ事ニア
ラス 甚難治証也 尤氣血之メクリヨキ人
ハ治スル事モアリ 氣血之メクリ悪ク乾キ

タル人ハ治シカタシ カアリイストタシカ
ナ処見付タレハ輕キモ又重キモ氣ヲ附ヘキ
事也 此証ハ腐ル、ニ心易キモノ也 此等
ヲ見事ニ治スヘキ事也

- 右之腫物色々ニシテ腐レヲ取仕懸有 初腫物
浅クハ余之腫物之如ク治ヲ為先初ハ水薬ヲ用
テ良

治方 テンキユルメラ テンキユルアロエス
此等ヲ交合セテ遣テモ良

テンキテユルシユクシニイ サンキスダ
ラコウニス

右細末シテ振イカクレハ腐レヲ喰ヌクモノ
也

メラ アロエス 右散ニシテ附テモ良
科治之度毎ニ穢物ヲノコイ取テ夫々ノ薬ヲ附
ルナリ

右ニテ早く腐レヲ去ル仕懸良也

註云 右穢物ヲノコイ去ハ腫物ノ為ニ去テ
ハナシ 第一嗅氣ヲ去ル為也 右ノ仕カケ
ニテ腐レ去時ハヨシ モシ腐レ取レスハ切
テ舎ル也

- 右之如キ仕懸ニテ治セヌ時ハ

丁子油 是ハ骨ニ入腐レヲ止ムル者也
ア、クワハカタニカ ア、クワアロミノウ
サ

右之類ヲ用 腐レ取レタレハ此跡油入ラズ
ハルサムヲ用

テンキテユルメラ テンキテユルアロエ
ス

琥珀

テンキテユル ハルサムヘルヒヤアノム

此等ヲ用 愈キワ、餘之腫物ニ治同シ

註云 前々ヨリ色々之治方ハ多クアレドモ
切テ取ト云事ハナシ 今ニ當テ切ル仕カケ
ヲ用 トカク深く喰入事ヲキロウ也 ◎此
印之治方良ト云 交テ付ル薬ハ脂類良 油
類ヲキロウナリ トカク腐レヲトメル仕懸
良モシ腫物口セマクハ切廣メテ治ヲ為ス
メリクウリス ヘレシヒタアト 此類ニ
テエスカルシテ口廣ムルモヨキナリ

- カアリスハ肉骨トモニ腐レ骨ニモ穴明モノナリ

又穴明サル所アラハキリニテ疵ナキ所マテイキリ通シ骨子腐レヲルカヲラスカヲ見為也 前頭之金瘡ニ云シ如ク科治シカケル也

註云 其腐レシ所ヲ見テ早く骨ヲイキリ通ス時ハ上ハ腐肉ニトチラレ居ル故見エカタキモノナレハ早く骨ヲ見付テイキル也 骨ヲイキル時ハ嗅氣アル膿汁出ル也 夫ヨリ腐レテ去レハ肉上リ皮早く生スルナリ

○右之通りニシテ前之ハルサム類ヲ付ル時ハイキリタル穴ヨリ新肉生シ骨之上マテ肉カ、モノ也

○又カアリスヲ骨コサケニテコサゲ或ハヤスリニテモ腐タ骨ヲスリテ科治ス 骨之無事ナ処マテヤスリニテスリタリ 骨コサケニテコサゲタリシテ取也 コサケテモスリテモ腐レ止ラサル時ハステ置也 然レドモ宜キアフラ膿出レハ良コサケテモ腐レ深く入時ハ切テ取也 切道具ハノミニテ腐レキワヨリ少シ生肉ノ方ヘヨリ切テ舎ルナリ 少ニテモ切殘ス時ニハ又夫ヨリ腐レ入テ廣クナルモノナレハ少ニテモ殘ラヌヤウニ切也

○カアリスノ科治スルニハ其腐レタ所ニ相應スルヤウニ焼金ニテモ又ハ灸ニテモ用ユル也 是ニ心得ノ有事也 和ラカ成ハ焼金用ユルニ不及夫トモニ口細ケレハ口ヲ廣ク切明テ骨ニ焼金ヲアツル也 膿汁出ル時ハヨク〜ノコイ取テ其跡ヘ焼金用ユル也 焼様モ無事ナ処マテ焼也 腐レヲ焼テ留ル時ハ生肉早く上ルモノナリ 右ノ如ク科治スル時ニハ腐レ去リ生肉思合テ治スル 此仕掛ニテ多ハ治スルモノ也 焼金ニテ一度焼テ見ルニ腐レ深キ時ハ二度モ三度モ焼也 少シニテモ腐レ殘ル時ハ生肉合カタシ ヨク〜考テ治スヘシ 焼様モ焼金焼カヘニテヤクナリ 焼内モ痛ク事アリ 又覺ヌ事モアリ 焼ニモ所キロウ 頭腦中焼事尤忌也 腦ニ疵付ハ甚悪シキ也 他處和ワカ成骨ハ焼テ取也 胸腹手足少モ不苦也

註云 骨ヲ焼ハコサケテ取 スリテ取ヨリモ焼ニ徳アリ 故ニ焼也 焼ヤウハ前ニ同シ骨ノサク〜楊枝ノコトクナリタルハ皆焼テ取也 骨ニ腐レ入モノハ焼テ取留ル也 焼時ハ骨ヨリ出ル膿皆止ルモノ也

○焼跡コワリヲル処ヘ前ニ云ハルサム類ヲ付ル時ハカタキトウソロ〜ヲツルモノ也 此アト赤キ生肉上リテホトコロモ新ニテ次第々ニ治スルモノ也 又生肉ノコトク見ユレトモ和ラカニシテフワ〜水エイノ如クナルハ生肉ニアラサルナリ 夫ユヘ肉十分ニアカリテモ皮ヲ生セヌナリ 如此シテ肉皮ニツカヌハ毒氣サラサル故也 毒去ヌ時ハイツマテモ肉フツ〜シテシマラスモノ也 其時ニハ毒去 肉シムルモノヲ用ユルナリ 肉シメ毒去ノ方

アロミニスユステイ ヘレシヒタアト

右之類ヲフルイカクル也 見事肉シマルモノナリ

註云 此ニテ骨ヘ肉カケル也 油類ヲ忌ム也 別テ頭腦ナトヘハ少ニテモ油ヲ忌ナリ 科治モ或ハイキリ或ハ焼金ヲ用ユル也 尤筋アル処ハ切ニクキ故糸ニソツヒルマアトノ類ヲ付是ニテク、リヲキ其腐アトヲ切也 又ハ喰切葉ヲ付置喰切ス也 此跡ノ仕懸ハ

テンキテユルメラ テンキテユルアロエス

ア、クワカルシス

此類ヲ見合セ和ワラカニシマラザル肉カタマリ治スル カアリスノ口明ヌヲ口明テ焼也 骨ノ上ニアル肉和ラカナレハ皮ノ上ヨリ焼也 頭腦別テ焼金ヲ用ユ

まとめと考察

まず本論文に書かれた病名リストを作成する。

- 1 ヒボウネス エン ハロテエテス
- 2 カルホンキリイ
- 3 ヒユホウネス ヘエネスホイレン
- 4 ヘルニヨウネス
- 5 ヘエテヒュル コウトヒュル
- 6 アンヒユスシヨウ コンビスシヨウ
- 7 シユリス クヌウストゲスウエレン
- 8 カルシノマ カンケル
- 9 ラエテエマ ワアテルケズウユルシン
- 10 ウエキライト センテンゲ テル ゲウリキテン
- 11 ヒステラア ヘイフスウエレン
- 12 クハアトア、ルデケエン ハルトネツキゲスウエ、レン

- 13 ヘエニススウエレン
 14 ユルセラア カロサ
 15 フルヲウデルテサ スウエレン
 16 カアリイス ベーン フレエテル

これらの病気の病状、可能な病因、内治である薬物療法（水薬、油薬、膏薬）、外治である焼金、ランセッタなどによる排膿、口明、切取等を書き記している。本論分では、主に体表にできた腫物について述べられている。他の疾患に関しては、又別の講義録『紅毛外科聞書』（吉雄永純 翻訳 合田善興 述）がある¹³⁾。この本では、痔の療法や良性および悪性腫瘍（乳癌、陰囊腫瘍等を含む）血腫、眼病等が書かれている。これらより、阿蘭陀語の外科書が、吉雄家にあり、その一部が翻訳され、講義されたと考えた。

次に、この原本となる教科書は何であろうか？長与は論文末に付記として次のように記している¹¹⁾。

「付記・吉雄耕牛・蘆風兄弟が使った原書が何であったのか記載が無いので明らかでないが、その時代の輸入蘭書のリストからしてハイステル著、ウルホーン蘭訳の外科書、及びプレんキの外科書などが用いられていたものと思われる。」

吉雄家に所蔵されていた外国語の本は約20冊であるが、この中でヘーステルとブランカールが関係するものと考えられる¹⁴⁾。ことに、長与が引用したハイステルは読み方が異なるがヘーステルである。一部が引用されていると考えられる。なお、ハイステルの『Institutiones Chirulgie』は後に大槻玄沢によって翻訳をされた。題して『瘍醫新書』という。この中に「瘍醫新書総目」が15丁にわたってあげられている。その第一部の中で「瘡（腫瘍部）・潰瘍・黴瘡結毒潰瘍療法（腫瘍部）」¹⁵⁾とあるが、その内容は本論文の内容に相当する。なおこの『瘍醫新書』が刊行されたのは1790年である。後述するが、『紅毛醫術聞書』が書かれたのは、遅くとも安永六年（1777）であることから、吉雄塾での情報受容が早かったことがわかる。

次に、この本の書かれた年代について述べる。長与は、本書に制作年代が一切の時期が書かれていない事から、最初に大介が長崎を訪問した宝暦

五年から安永七年の間としている。この安永七年には、蘆風の遺言に従い、長崎を訪れ、『外療和解雜記』¹⁶⁾を写した事が、記されている。筆者は、本書が書かれた時期は、最初の長崎訪問ではないだろうと考えている。その理由として、合田大介の残した文書の中に『紅毛外療油之書』¹⁷⁾や『阿蘭陀薬種功能之傳書』¹⁸⁾があるが、その写された年がわかっており、宝暦八年五月である。最初はこのような薬に関する教科書がなかったが、受講者からの要請で作られ、さらにこの教科書には薬品の数や本邦の薬草名が、書き加えていかれたと考えられる。大介が写した二書は後年のものと比べると、比較的その数が少ないものだが、本文では、かなり多くの水薬、油薬、膏薬が書かれており、講義もこれらの薬書に基づいて行われたと考えた。その事から、宝暦八年五月の訪問の時のものである推論した。次に終わりの年代であるが「聞書」と書かれている以上、蘆風の生存中と考えるべきであろう。よって安永六年以前であろう。以上より、宝暦八年（1758）から安永六年（1777）までと考えた。

すでに述べたが、紅毛の外科書が翻訳されたのは、ハイステルの外科書で、大槻玄沢の『瘍醫新書』である。出版されたのは一番早い説によれば1790年である。この年代から考えても、安永六年以前に、ヨーロッパで最もよく読まれた外科書が翻訳された事は重要な情報であろうと考えられる。さらにハイステルの著作が異なる言語（ドイツ語、フランス語、ラテン語、英語、オランダ語）で出版されたが、オランダ語の初版は、1750年ごろであると考えても、ほとんど大きな時差がなく、ヨーロッパでの当時の最新の外科学の情報が輸入されたと考えられる。

参考文献および語の解説

- 1) 香川県立ミュージアム（〒760-0030 香川県高松市玉藻町5番5号）所蔵 合田慶介資料 資料番号 31号（以下号数とタイトルのみ）『紅毛醫術聞書』
- 2) 54号『蘭齊先生行状』
- 3) 富士川游『温恭合田求吾先生』中外医事新報1239号 1～9頁 1936年（昭和十一）を基に合田強の略歴をまとめた。

- 讃岐国豊田郡和田浜生まれ（現香川県観音寺市）。父は合田傳右衛門 吉盤。弟は合田大介（蘭齋）。名は強、字は千之、通称求吾、温恭、号は巨鼈、鼈山。幼少の時、合田又玄、高橋柳哲について医を修め、宝暦二年（1752）二月京にて松原一閑齋に医と儒を学んだ。宝暦六年（1756）江戸にて望月三英につき、後に京都で山脇東洋、吉益東洞等に師事した。その後、長崎にて吉雄耕牛・吉雄蘆風に学んだ後、宝暦十二年（1762）一月長崎より讃岐へ帰る途中の南肥後で永富独嘯庵・亀井南冥に出会い、二人に長崎に遊学を勧める。墓は香川県観音寺市豊浜町和田浜。
- 4) 板野俊文, 田中健二 合田強の『西洋医述 卷三』の解題と翻刻 日本医史学雑誌 第62巻第1号 92～75頁 2016年（平成二十八）
- 5) 板野俊文, 田中健二 合田強の『西洋医述 卷四』の解題と翻刻 日本医史学雑誌 第63巻第1号 146～133頁 2017年（平成二十八）
- 6) 文献3の文末
「先生の弟に諱善興、字久敬、大介と称し、先生と同じく吉雄氏に学び外科を以てその名を当時に顕した大医が居られた。この人の学界に於ける功績も亦伝うべきものがある。」
- 7) 480号 総本家に伝わっていた享保一九年（1734）提出の先祖覚書を合田貞五郎が写したものを。
- 8) 片桐一男『江戸の蘭方医学事始 阿蘭陀通詞・吉雄幸左衛門 耕牛』丸善ライブラリー 2000年（平成十二） 231～240頁
右文献から吉雄耕牛の略歴をまとめた。
享保九年（1724）生 長崎 寛政十二年（1800）死 長崎
江戸時代中期の蘭方医。吉雄流外科の開祖。初め定次郎、次いで幸左衛門、のちに幸作、幸載と称す。諱は永章、号が耕牛、養浩齋、成秀館ともいう。長崎の通詞吉雄藤三郎の長男に生れ、少年時代からオランダ商館に出入りして、寛保二年（1742）、一九歳で小通詞、寛延一年（1748）には大通詞となった。
- 9) 吉雄作次郎（永純）享保十年（1725）生まれる。安永六年（1777）死亡 五十三歳
江戸中期の阿蘭陀通詞。諱は永純。阿蘭陀通詞吉雄藤三郎の子で幸左衛門の弟。別家をたてる。寛保二年（1742）稽古通詞、宝暦八年（1758）小通詞末席、明和三年（1766）小通詞並、同八年小通詞助役となる。安永六年十月四日歿。明和八年九月に「由緒書」を提出している。子は左七郎。（片桐一男）洋学史事典 日蘭学会編 昭和五十九年 雄松出版
- 10) 松原 敬輔（まつばら けいほ）、享保十三年九月十四日（旧暦）（1728）～寛政四年二月四日（旧暦）（1792）は、江戸時代の医学者。名は陳善（のぶよし）、一貫齋はその号。又は、白翁と号す。松原一閑齋維岳の長子。京都生まれ。65歳に小浜にて没す。墓は西福寺（小浜市）。著書に『千金方摘録』『外台秘要方摘録』がある。小浜藩医の長井俊と、徳島藩医の松原周治は実弟。（ブリタニカ百科大事典）
- 11) 長与健夫『『紅毛医術聞書』にみる合田大介のキャンケル論』日本医史学雑誌 41巻3号 395～401頁 1995年（平成七）
- 12) 胡 光『紅毛医術の伝播と長崎一合田求吾・大介兄弟の足跡を通して』26～48頁 中村賢編『開国と近代化』吉川弘文館 発刊 1997年
- 13) 32号『紅毛外科聞書』
- 14) 文献八の108～103頁を参考にすると、
吉雄耕牛の門人で編者の百百海鵬が『因夜発備』の「標語」のなかで、吉雄塾で知る事ができるオランダ語の医学書を紹介している。原文では難解な漢字表記で列記している。当時の、蘭学者間における習慣に従い、その著者名で呼んだり、署名の一部分で呼称したりしている。ここでは、片桐一男の著書に従い、読みだけを記す。
1, ホイスハウデレイキ 2, ボイセン 3, シカットカーメル 4, マトローゼン 5, レイゲルシキデ 6, バグアールト 7, ドドネウス 8, プカン 9, ヘーステル 10, ブランカール 11, リス 12, アールドゲワッセン 13, ウルツヒング 14, タウマス 15, アポテーキ 16, ゲソンドシカアド 17, バルベツテ 18, ベルウンバトン 19, フンダメント 20, メデレイキ
このなかで、外科学に関係すると思われる原書は、9, ヘーステル 10, ブランカールである。長与のリストしたプレんキはこの時代の蔵書にはない。しかし、プレんキは確かに蔵書中にあったことは事実で、後に『黴瘡口訣』として翻訳されている。よって、長与のリストしたプレんキの可能性は否定できない。
- 15) 杉本つとむ『江戸の阿蘭陀流医師』早稲田大学出版部 2002年 49～59頁
- 16) 29号『外療和解雜記』奥書「安永七戊戌八月十四日黒川芦舟ヨリ借 門徒西村正左ヲシテ長崎柁嶋町客舎にて謄写す 合田善興大介蔵本」
- 17) 28号『紅毛外療油之書』表紙裏書「宝暦八年五月十六日長崎納中町黒河主ヨリ借用致、同所柁嶋町油屋ニ而写物也」宝暦八年五月十六日写
- 18) 45号『阿蘭陀薬種功能之傳書（写）』奥書「宝暦四戊午年来朝、同年直ニ出島ニ而写止、阿蘭陀生国ホー事イチ国スベレンケル秘書也、肥前長崎阿蘭陀通事吉雄幸左衛門先生ヨリ恩借ス」「同所柁嶋町油屋ニ而写是者也、西讃和田浜合田大介久敬善興」宝暦八年五月十八日写